〔医療管理学講座〕

（1）医療情報学分野

1．研究の概要

医療情報学分野では，健康・医療・介護・福祉分野を横断する広範な領域で健康データや診療データ，あるいは関連データ（例えばレセプトデータ，医薬品有害事象報告データ）等を分析，社会に貢献できる成果を出すことを目標に実学的な研究を進めている。また，これまでの研究で培ってきた大規模データに対する分析手法は，そのまま生命科学分野におけるゲノム情報等の大規模データ分析に応用可能であることより，最近ではMR装置を用いた分子イメージング技術とシステムズ・バイオロジー分野でのダイナミクス分析技術を融合した領域に研究分野を拡大していきたいと，新しく挑戦を開始した。

そのため，非線形物理学およびネットワーク理論を用いて，多様な要素が複雑に絡まり合う生命現象を理解し，医学の発展の一助とすることを目指す。また，数学の持つ力を用いて，現在ではシミュレーションが困難な現象を計算機内で再現する新しい手法を構築することを目指している。

2．名簿

教授：　紀ノ定保臣　Yasutomi Kinosada
准教授：　一宮尚志　Takashi Ichinomiya

3．研究成果の発表

著書（和文）

1）紀ノ定保臣．注射に関するシステムの課題と検討事項ー岐阜大学病院の場合：松村泰志編集．医療情報システム実践シリーズ 1ー注射に関するシステムの現状と課題ー，日本医療情報学会医療情報技師育成部会監修，東京：篠原出版新社；2009年：55－63.
2）紀ノ定保臣．Ⅳ医業経営管理体制構築・実施に関する知識　9．医業経営管理論(3)：医業経営コンサルタント　21 年度指定講座・一次試験テキスト，東京：社団法人日本医業経営コンサルタント協会；2009 年：317－357.
3）紀ノ定保臣．病院インテリジェント化で意識改革を：岩堀幸司編．病院のブランディング，東京：ユーディ・シー；2009年：196－199.
4）紀ノ定保臣．情報分析・評価の目的と方法ー病院管理のための情報分析ー：日本医療情報学会医療情報技師育成部会編集．新版医療情報　医療情報システム編　第1版，東京：篠原出版新社；2009年：347－355.
5）紀ノ定保臣，岡部哲夫・藤田広志編集．医用画像への応用(MRI)：新・医用放射線科学講座　医用画像工学，東京：医歯薬出版；2010年：155－170.
6）紀ノ定保臣編著．「医療情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)」：医療経営士上級テキスト第7巻，東京：日本医療企画；2010年.
7）紀ノ定保臣．次世代の医療情報システム：医用画像ハンドブック　第10編　第5.1節，東京：オーム社；2010年：1504－1507.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1）紀ノ定保臣．電子カルテ Cutting Edge 序説，映像情報 Medical　2009年；41巻：485.
2）紀ノ定保臣，長瀬　清．医療機関における ICT 戦略とマネジメントの調和を求めて，IT VISION　2009年；18巻：40－44.
3）紀ノ定保臣，藤岡　圭，森田浩之，石塚達夫．内視鏡を含めた医療データベースの進歩，消化器内視鏡 2009年；21巻：993－1001.
4）紀ノ定保臣．画像をより深く理解するために，映像情報 Medical　2010年；42巻：354－355.
5）紀ノ定保臣，長瀬清．医療の質の可視化と病院経営ー蓄積されたデータの活用を目指してー，月刊ジャーマック　2010年；21巻：23－27.
6）紀ノ定保臣．医療ICTの新たな挑戦分野と安全な運用をめざして，映像情報Medical　2010年；42巻：569.
7）長瀬　清，紀ノ定保臣．急性期病院における手術部門システムの役割とその将来像，月刊新医療　2010年；37巻：137－140.
8）紀ノ定保臣．ヨーロッパ先進動向と日本での医療IT活用の課題と展望，月刊新医療　2010年；37巻：122－127.
9）荒井　迅，一宮尚志，浦本武雄，西郷甲矢人，蓮尾一郎，Piet Hut，春名太一，平岡裕章．圏論と異分野協働，数学セミナー　2011年；50巻；56－62.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 清水秀年，宮村廣樹，松島　秀，村上政隆，惠良聖一，内山良一，紀ノ定保臣．Equivalent Cross-Relaxation Rate Imaging を用いた耳下腺機能評価，生体医工学　2009 年；47 巻：215－221.
2） 國枝琢也，内山良一，原　武史，藤田広志，加藤博基，浅野隆彦，兼松雅之，星　博昭，岩間　亨，紀ノ定保臣，横山和俊，篠田　淳．脳 MR 画像におけるラクナ梗塞と血管周囲腔拡大の鑑別法，医用画像情報学会 2009 年；26 巻：59－63.
3） 浅野龍紀，内山良一，浅野隆彦，加藤博基，原　武史，周　向栄，岩間　亨，星　博昭，紀ノ定保臣，藤田広志．MRA 画像における脳動脈領域の抽出法－大規模データベースを用いた評価－，医用画像情報学会雑誌 2010 年；27 巻：55－60.

原著（欧文）
1） Okayasu S, Nakamura M, Sugiyama T, Chigusa K, Sakurai K, Matsuura K, Yamamoto M, Kinosada Y, Itoh Y. Development of computer-assisted biohazard safety cabinet for preparation and verification of injectable anticancer agents. Chemotherapy. 2009;55:234-240. IF 2.108
2） Shimoda H, Taniguchi K, Nishimura M, Matsuura K, Tsukioka T, Yamashita H, Inagaki N, Hirano K, Yamamoto M, Kinosada Y, Itoh Y. Preparation of a fast dissolving oral thin film containing dexamethasone: a possible application to antiemesis during cancer chemotherapy, Eur J Pharmaceu Biopharmaceu. 2009;73:361-365. IF 4.304
3） Nakamura K, Sogami M, Era S, Matsushima S, Kinosada Y. Comparative 1H NMR studies of saturation transfer in copolymer gels and mouse lenses. NMR in biomedicine. 2010;23:584-591. IF 3.064
4） Era S, Matsushima S, Sogami M, Kinosada Y. In vitro and in vivo characterization of polymer-water interaction studied by an off-resonance MRI-systhetic copolymer gels and breast carcinoma. WWMR 2010 Joint EUROMAR 2010 and 17th ISMAR Conference, Book of Abstracts. 2010;282.
5） Era S, Sogami M, Uyesaka N, Kato K, Murakami M, Matsushima S, Kinosada Y. Comparative intermolecular cross-relaxation studies of human hemoglobin in red blood cells and bovine serum albumin in solution, NMR in Biomedicine. 2011;24:483-491. IF 3.064

4．研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：下村眞美，研究分担者：棟居快行，藤本利一，紀ノ定保臣；科学研究費補助金基盤研究(C)：医療訴訟における医療情報システムのあり方に関する研究；平成 20－22 年度；3,500 千円(1,200：1,100：1,200 千円)
2） 研究代表者：前田利之，研究分担者：淺田孝幸，伊佐田文彦，歌代豊，岡本直之，紀ノ定保臣，崔　英靖，中田範夫，松村真宏，松本有二，三浦徹志，山本眞由美，山本容正；科学研究費補助金基盤研究(A)：医療組織での携帯端末の活用による医療リスク防止のための研究；平成 19－21 年度；32,000 千円(10,900：12,200：8,900 千円)
3） 研究代表者：内山良一，科学研究費補助金若手研究(B)：ラクナ梗塞鑑別のためのコンピュータ支援診断；平成 20－21 年度；1,700 千円(900：800 千円)
4） 研究代表者：一宮尚志；科学技術振興機構『さきがけ』数学と諸分野の協働によるブレークスルーの探索；数学を応用した新しい動力学シミュレーション法の開発；平成 21－24 年度；20,171 千円(2,609：2,912：2,650：12,000 千円)
5） 研究代表者：梶井英治，研究分担者：中村好一，石川鎮清，岡山雅信，藍原雅一，紀ノ定保臣，関　庸一，本多正幸，小荒井衛，古城隆雄；科学研究費補助金基盤研究(A)：「地域医療データバンクの活用による地域医療需要と医療資源から見た地域医療の効率化」；平成 23－26 年度；37,800 千円(21,600：4,800：7,000：4,400 千円)

2）受託研究

1） 紀ノ定保臣：個人毎の体質に応じた個別化医療支援システムの開発；平成 21 年度；14,743 千円：文部科学省
2） 内山良一：大規模 MRA 画像を用いた未破裂動脈瘤検出技術の高度化とその実用化システムの開発；平成 21 年度；1,500 千円：立石科学技術振興財団
3） 紀ノ定保臣：モノづくり技術と IT を活用した高度医療機器の開発(個人毎の体質に応じた個別化医療支援システムの開発)；平成 21－23 年度；47,087 千円(14,743：16,401：15,943 千円)：文部科学省都市エリア産学官連携促進事業[発展型]

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

1） 紀ノ定保臣，亀山敦之，速水　悟，山本けい子，山下広記，武藤隆義：健診データ処理法，健診データ処理装置，及び，プログラム；平成 23 年(特許出願中)

6. 学会活動

1）学会役員

紀ノ定保臣：

1） 日本磁気共鳴医学会教育委員会委員(～平成 22 年 3 月)
2） 日本磁気共鳴医学会代議員(～現在)
3） 日本生体医工学会代議員(～現在)
4） 日本医療情報学会評議員(～現在)
5） 日本医学放射線学会電子情報委員会委員(～現在)

一宮尚志：

1） 日本物理学会領域 11 運営委員(～現在)

2）学会開催

紀ノ定保臣：

1） 患者データの 2 次利用と DWH に関する研究シンポジューム(平成 22 年 7 月，東京)
2） 患者の視点に立った医療データ分析に関する研究シンポジューム(平成 23 年 7 月，東京)

3）学術雑誌

内山良一：

1） 医用画像情報学会誌；編集委員(～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

紀ノ定保臣：

1） 医業経営者セミナー(平成 21 年 2 月，金沢，講演「医療機関の IT 化戦略ー大規模データの活用とその効果ー」演者)
2） 日本ラジオロジー協会 Cyberrad2009(平成 21 年 4 月，横浜，講演「放射線部門を取り巻く病院内の患者動線」演者)
3） 特定非営利活動法人　新潟情報通信研究所　第四回通常総会(平成 21 年 5 月，新潟，講演「医療と健康，システムと運用，これまでとこれから」演者)
4） 第 13 回日本医療情報学会春季学術大会(シンポジウム 2009)(平成 21 年 6 月，長崎，「地域医療連携による情報蓄積と活用」座長)
5） 第 13 回日本医療情報学会春季学術大会(シンポジウム 2009)(平成 21 年 6 月，長崎，「患者動線の可視化と分析に関する考察」演者)
6） 第 13 回日本医業経営コンサルタント学会(平成 21 年 6 月，金沢，一般演題(情報化認定コンサルタント)座長)
7） 平成 21 年度医業経営コンサルタント指定講座(平成 21 年 7 月，東京，講演「医業経営管理論：情報管理」演者)
8） 平成 21 年度認定看護管理者制度「セカンドレベル教育課程」(平成 21 年 9 月，兵庫，講演「看護管理を支援する情報技術」演者)
9） 第 37 回日本磁気共鳴医学会大会(平成 21 年 10 月，横浜，講演「それぞれの k-空間」座長)
10） 第 37 回日本磁気共鳴医学会大会(平成 21 年 10 月，横浜，「SWI の基礎」座長(教育講演))
11） 第 37 回日本磁気共鳴医学会大会(平成 21 年 10 月，横浜，「新しいパラメータ ECR」座長(教育講演))
12） 医療情報システムの革新と情報セキュリティ講演会(平成 21 年 10 月，名古屋，基調講演「電子カルテシステムとデータの有効活用，そして個人情報保護」演者)
13） 日本医療機器産業連合会企業倫理委員会講習会(平成 21 年 10 月，東京，講演「医療機関のコンプライアンス」演者)

14) 日本医学放射線学会秋季臨床大会　第22回電子情報学会(平成21年10月，和歌山,「遠隔画像診断」座長)
15) 情報化認定コンサルタント指定講座(平成 21 年 10 月，東京，講演「情報化資源調達支援：ベンダ選定手順提案」演者)
16) 情報化認定コンサルタント指定講座(平成 21 年 10 月，東京，講演「情報化運用支援：意思決定活用支援」演者)
17) 日本医療情報学会(平成 21 年 11 月，広島，「アソシエーション分析：DWH からの連関ルールの生成」演者)
18) 日本医療情報学会(平成 21 年 11 月，広島，「DWH に蓄積されたデータの活用ー業務支援型から意思決定支援型の病院情報システムへー」演者)
19) 鈴木謙三記念財団法人医科学応用研究財団第 56 回学術講演会(平成 21 年 11 月，名古屋，講演「岐阜大学病院診療情報システムの誕生記」演者)
20) (社)日本医業経営コンサルタント協会(平成 21 年 12 月，東京，講演「CIT 継続研修　医療の質の可視化と病院経営　ー蓄積されたデータの活用を目指してー」演者)
21) 先端創薬医療シンポジューム(平成 21 年 12 月，岐阜，講演「大規模データの蓄積とデータマイニング」演者)
22) 薬剤師キャリアアップレクチャー第 3 回(平成 22 年 2 月，大阪，特別講演「医薬品データベースと薬剤疫学」演者)
23) 日本眼科医療機器協会平成 21 年度定時総会(平成 22 年 3 月，東京，講演「これからの医療機関と医療機器のあり方」演者)
24) 国際医療福祉大学大学院公開講座　医療におけるデータマイニング技術の活用とその価値を知る(データマイニング講座)(平成 22 年 5 月，東京，講演「創薬におけるデータマイニング技術の活用事例」演者)
25) 第 14 回日本医療情報学会春季学術大会(平成 22 年 5 月，高松，「口演セッション 2」座長)
26) 第 49 回日本生体医工学学会(平成 22 年 6 月，大阪，「福祉工学」座長)
27) 株式会社帝国建設コンサルタント　第 22 回社内技術発表会(平成 22 年 7 月，岐阜，特別講演「スマートな都市の設計を目指して」演者)
28) 患者データの 2 次利用と DWH に関する研究シンポジューム(平成 22 年 7 月，東京，講演「医療機関における外来患者動線の分析とその最適化」演者)
29) 患者データの 2 次利用と DWH に関する研究シンポジューム(平成 22 年 7 月，東京，パネルディスカッション「地域医療連携をスコープに入れたデータ活用のあり方について」座長)
30) 平成 22 年度医業経営コンサルタント指定講座(平成 22 年度 7 月，東京，講演「医業経営管理論：情報管理」演者)
31) 国際モダンホスピタルショウ 2010　Yahgee スペシャル･プライベート･セミナー(平成 22 年 7 月，東京，講演「これからの医療情報システムとヤギー社への期待」演者)
32) 平成 22 年度公取協医器販協支部　九州ブロック研修会(平成 22 年 9 月，福岡，講演「医療機関におけるコンプライアンス」演者)
33) トレーサビリティセミナー(平成 22 年 10 月，神戸，講演「医療機関における外来患者動線の分析とその最適化」演者)
34) InterSystems in Healthcare Seminar 2010(平成 22 年 10 月，東京，基調講演「ヨーロッパ先進動向と日本での医療 IT 活用における課題と展望」演者)
35) 日本医療情報学会(平成 22 年 11 月，浜松,「臨床経済/医療評価」座長)
36) 第 15 回日本医療情報学会春季学術大会・シンポジューム「医療機関に求められるデータ 2 次利用の形態とその実現に必要な基盤」(平成 23 年 6 月，東京，講演「医療機関におけるプロセスデータの解析技術とその応用」演者)
37) 第 15 回日本医療情報学会春季学術大会・シンポジューム「広域医療における情報の統合と活用」(平成 23 年 6 月，東京，講演「健診データを用いた将来の健康リスク予測と関連データのレコメンデーション」演者)
38) 第 15 回日本医療情報学会春季学術大会・シンポジューム「広域医療における情報の統合と活用」(平成 23 年 6 月，東京，「広域医療における情報の統合と活用」座長)
39) 製薬天城セミナー(平成 23 年 7 月，静岡，講演「医療情報利活用の最新動向」演者)
40) 患者の視点に立った医療データ分析に関する研究シンポジューム(平成 23 年 7 月，東京，講演「大規模データの活用に求められる人材の育成と環境の整備」演者)

41） 患者の視点に立った医療データ分析に関する研究シンポジューム(平成 23 年 7 月，東京,「求められる技術・人材とスキルの育成」座長)
42） 平成 23 年度医業経営コンサルタント指定講座(平成 23 年 7 月，東京，講演「医業経営管理論(3)「情報管理の基本・情報システム等」演者」
43） IBM サイエンス・シンポジウム「Healthcare in 2030」(平成 23 年 7 月，東京，講演「高齢者が元気で経済活動の重要なプレイヤーとなる社会を目指して」演者)
44） 平成 23 年度第一回病院経営管理研修会(平成 23 年 9 月，東京，基調講演「病院経営状況の視覚化」演者)
45） 平成 23 年度認定看護管理者制度「セカンドレベル教育課程」(平成 23 年 11 月，兵庫，講演「看護管理を支援する情報技術」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

紀ノ定保臣：

1） 岐阜県医師会勤務医部会 IT 委員会委員長(～現在)
2） 岐阜県医師会情報システム委員会委員(～現在)
3） 全国健康保険協会岐阜支部評議会議長(平成 21 年度～現在)
4） 岐阜県医師会勤務医部会学術委員(～現在)
5） 地域医療情報研究開発機構理事長(平成 23 年度～現在)

一宮尚志：

1） 独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター「電子情報通信分野俯瞰プロジェクト V」未来研究開発検討委員会委員(～現在)

10. 報告書

1） 紀ノ定保臣：学生支援における IT 化の将来について：全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会報告書：50－55 (平成 21 年 1 月)
2） 紀ノ定保臣：医療分野における課題と提言：財団法人地球科学技術総合推進機構　新技術振興渡辺記念会　平成 21 年度科学技術(調査研究)助成事業「複合画像情報共有化技術に関する調査研究」成果報告書：27－36(平成 22 年 3 月)
3） 紀ノ定保臣：個人毎の体質に応じた個別化医療支援システムの開発：文部科学省地域イノベーションクラスタープログラム(都市エリア型)岐阜県南部エリア研究成果発表会「モノづくり技術と IT を活用した高度医療機器の開発」：41－50(平成 23 年 2 月)

11. 報道

1） 紀ノ定保臣：データマイニングで薬害予防：中部経済新聞(2009 年 12 月 23 日)
2） 紀ノ定保臣：最先端医療座談会「日進月歩の医用画像情報技術～秘められた魅力と可能性を語る」：科学新聞(2010 年 6 月 25 日)
3） 紀ノ定保臣：蓄積された医療情報を活用し，安全・安心な医療提供システムを構築：日経サイエンス第 40 巻第 7 号(2010 年 7 月 1 日)
4） 紀ノ定保臣：ヨーロッパ先進動向と日本での医療 IT 活用における課題と展望：株式会社インナービジョン　インナビネット(2010 年 11 月 12 日)
5） 紀ノ定保臣：IT による医療構造改革には政府のイニシアティブと成果検証が必要：日経メディカルオンライン(2010 年 11 月 15 日)
6） 紀ノ定保臣：インターシステムズ・セミナー「世界の医療連携システムの現状と国内外の事例を紹介」：月刊新医療　第 37 巻第 12 号(No.432)(2010 年 12 月 1 日)
7） 紀ノ定保臣：「InterSystems in Healthcare Seminar 2010」セミナーレポート「医療現場を支援する IT 活用～接続連携された医療を目指して～」：日経ヘルスケア 2011 年 1 月号 (2011 年 1 月 5 日)

12. 自己評価

評価

研究分野をこれまでの古典的な医療情報分野の領域から，生命科学の発展を取り込んだ新しい医療情報学分野の領域にシフトさせるため，今後の発展が期待される分子イメージング分野，ゲノム・代謝パス・シグナルパス分野，生命現象のダイナミクスを扱うシステムズ・バイオロジーの融合領域に拡大しつつある途中であり，現時点では充分な研究成果を挙げるまでには至っていない。これまでの準備期間を経て，次年度以降は成果が出せる研究室に変身したい。

現状の問題点及びその対応策

古典的な医療情報学分野では，病院の電子カルテシステムの構築や運用，診療データの二次活用に関する研究が中心であった。一方，今後の診療にはゲノムデータやモリキュラー・イメージ，各種最先端のバイオマーカが多用されることを念頭に，これらのデータを効率的・効果的に活用できる新しい医療情報学分野に変身する必要があると考えている。しかし，残念ながら研究室にはこのような新しい分野に精通した人材が充分いないことが理由で，研究成果の伸び悩みが起こっている。

今後は，他研究室あるいは他研究機関との連携を積極的に推進し，活力があり，独自性のある新しい医療情報学分野に変身できるように邁進する予定である。

今後の対応策を以下に示す。

1）平成 23 年度から 4 年間の科学研究費補助金基盤研究(A)：「地域医療データバンクの活用による地域医療需要と医療資源から見た地域医療の効率化」(研究代表者：梶井英治，研究分担者：中村好一，石川鎮清，岡山雅信，藍原雅一，紀ノ定保臣，関　庸一，本多正幸，小荒井衛，古城隆雄）を目的に，全国のレセプトデータを収集・データベース化・分析する研究を開始した。地域中核医療機関の再生を目的に，地理情報を活用した地域医療再生モデルの作成・実践・検証をする予定であり，社会に貢献する研究である。

2）米国 FDA が有する医薬品有害事象報告書（AERS：Adverse Event Reporting System）の大規模データを網羅的に分析できる環境が今年度末に完成することより，医薬品の有害事象情報，患者背景情報，薬理情報，代謝・信号パスウェイ情報等を統合的に分析する研究を推進する。このような研究環境は国内では初めてであり，世界的にも例が少ない。独創的な研究成果が出せると期待している。

3）大阪大学を基幹校とする連合小児発達学研究科（大阪大学，金沢大学，浜松医科大学，福井大学，千葉大学等が構成校）が進める小児発達障害に関する大規模データ（ゲノムデータ，PET 画像/MEG データ，MR 画像データ，各種観察データ）等の収集・データベース化・分析システムの構築と運用について本研究室が中心になって実施することを既に決定している。これらデータを統合的に研究することにより，本研究室の活動を活性化する予定である。また，新しい医療情報学分野の研究領域創設に繋げる予定である。

今後の展望

今後の展望として，医学系の他の領域と積極的に交流を持ち，共同研究を推進したい。特に次世代の医療情報学分野を創設するためにも，上述した今後の研究活動とともに，新たな非線形物理学やネットワーク理論と生命科学を融合させていく研究を立ち上げる予定である。

（2）総合病態内科学分野

1. 研究の概要

1）Dehydroepiandrosterone (DHEA)の抗肥満・抗糖尿病効果に関する研究

DHEA がインスリン作用を伝達するシグナルとして必須な phosphatidyl inositol 3 kinase を活性化する事，更にその下流の protein kinase C-ζを活性化する事，PPARγの発現を減少させる事などをこの頃報告したが，2009 年度には前脂肪細胞の増殖を抑制する事を見出した。また DHEA と testosterone の前脂肪細胞の増殖抑制に対する用量作用曲線がほぼ同等である事，androgen receptor（AR）をノックダウンするとこの作用が失われる事から，DHEA の作用は AR を介していると考えられるようになった。

2）成熟脂肪細胞の増殖に関する研究

現在多くの研究者は“成熟脂肪細胞は終末分化を遂げた細胞で，増殖能はない”と考えている。しかしこの根拠となる明らかな証拠は報告されていない。梶田は成熟脂肪細胞も増殖すると考え，in vivo でのチミジンアナログである BrdU の取り込み，培養脂肪細胞での細胞数の増加，フローサイトメトリーによる cell cycle などの知見からこれを確かめた。 更に pioglitazone により，特に皮下脂肪でこれが促進する事を見出した。そして pioglitazone により誘導される増殖因子をスクリーニングして，proliferin という，GH/prolactin family に属する蛋白に注目した。2010 年度には proliferin の下流に sphingosine 1 phosphate が関与しているのでないかという仮説のもとに，検討をしている。

3）旋毛虫感染による糖尿病改善機序に関する研究

多くの慢性炎症では耐糖能は悪化する事が多いが，寄生虫感染ではこれが改善した。その機序として，近年注目されている脂肪組織の炎症が，寄生虫感染により改善されたと考えられた。

4）p140-Cap の膵β細胞における役割，糖尿病発症への関与に関する研究

愛知県コロニーの永田浩一先生との共同研究で，もともと脳に多く発現している p140-Cap という蛋白が膵β細胞にも発現している事が見出され，この機能の解析を行っている。現在，主に糖尿病モデルである，OLETF と GK ラットの膵β細胞において，p140-Cap がどのように発現されているかを検討している。

5）ステロイド糖尿病に対する治療に関する研究

グルココルチコイドは，肝での糖新生亢進，筋・脂肪細胞での糖取り込み低下，高グルカゴン血症などを介して耐糖能を低下させ，血糖値を上昇させる。このためしばしばインスリンを使用する必要が出てくるが，それをグルココルチコイド投与前に予測することが可能かどうかについて，またその因子とカットオフ値に関して研究を進めている。また，血糖依存性に血糖低下作用を発現し，グルカゴン分泌を抑制する GLP-1 アナログによるステロイド糖尿病治療の有用性もインスリン治療との比較で検討中である。

6）腎機能障害とピロリ菌感染に関する研究

江南市の佐藤病院との共同研究で，糖尿病患者や血液透析患者で上部消化管内視鏡検査を行う機会がしばしばあるが，その際ピロリ菌感染率に健常者と差がみられないかについて継時的に研究している。透析患者では非透析患者に比べピロリ菌感染率が低いことは知られているが，その原因については良く知られていない。腎機能との関連で，ピロリ菌感染がどのように減少してゆくのかを検討している。

7）発熱患者の鑑別診断に関する研究

発熱患者の原因は非常に多岐にわたり，診断にも難渋することが多い。発熱の 3 大疾患は，感染症，膠原病，腫瘍である。細菌感染症に注目し，血液培養陽性予測因子の解明についての研究を行っている。また，最近臨床応用されるようになったプロカルシトニンの発熱患者における臨床的意義についても研究している。

8）携帯電話 EMA を用いた生活習慣病改善に関する研究

生活習慣病の治療は薬物療法によるところが大きいが，同時に生活習慣の改善も重要である。しかし，月 1 回程度の外来通院では，その際に十分な生活指導を行っても，時が経ては忘れてしまったりして，自己管理を継続するのが困難になってくる。そこで，医師から患者の携帯電話に定期的に自動で電子メールを送り，それに返答してもらうという EMA システムを導入している。それによって行動変容の維持に繋がり，生活習慣病の改善や薬物の減量に結びつくかについて研究を行っている。

2. 名簿

教授：	石塚達夫	Tatsuo Ishizuka
准教授：	森田浩之	Hiroyuki Morita
講師：	梶田和男	Kazuo Kajita
助教：	池田貴英	Takahide Ikeda

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 石塚達夫. 脂肪肝を伴った 2 型糖尿病の薬物療法：堀田　饒, 柏木厚典, 清野　裕, 中村二郎編. 糖尿病 UP・DATE 賢島セミナー25, 対糖尿病戦略のイノベーション　予知・予防から治療へ, 東京：時事通信社；2009 年；110－123.
2) 石塚達夫. 感染症(その他の合併症)：河盛隆造, 岩本安彦編, 糖尿病最新の治療 2010－2012, 東京：南江堂；2009 年；240－243.
3) 清野　裕, 加来浩平, 山田祐一郎, 石塚達夫, 荒木栄一. 糖尿病の危篤化を未然に防ぐ薬物療法：堀田　饒, 柏木厚典, 清野　裕, 中村二郎編. 糖尿病 UP・DATE 賢島セミナー25, 対糖尿病戦略のイノベーション 予知・予防から治療へ, 東京：時事通信社；2009 年；136－151.
4) 森田浩之. 日常生活のいろいろな症状：山本眞由美編. 大学生の健康ナビ　キャンパスライフの健康管理, 岐阜：岐阜新聞社；2009 年：54－59.
5) 森田浩之. 副腎皮質ステロイドホルモン抵抗症および過敏症：島田　馨編. 内科学書, 改訂第 7 版, 東京：中山書店；2009 年：173－175.
6) 森田浩之. 内科医の立場から：森田浩之編. いきなり名医！見わけが肝心, 不定愁訴　jmedmook09, 東京：日本医事新報社；2010 年：1－6.
7) 森田浩之. かゆみ・イライラ感：森田浩之編. いきなり名医！見わけが肝心, 不定愁訴　Jmedmook09, 東京：日本医事新報社；2010 年：75－78.
8) 岡田英之. 嘔気・嘔吐：森田浩之. いきなり名医！見わけが肝心, 不定愁訴　jmedmook09, 東京：日本医事新報社；2010 年：88－93.
9) 藤岡　圭. 全身倦怠感：森田浩之. いきなり名医！見わけが肝心, 不定愁訴　jmedmook09, 東京：日本医事新報社；2010 年：120－125.
10) 石塚達夫, 森田浩之, 宇野嘉弘, 藤岡　圭, 岡田英之, 森　一郎. 糖尿病治療に必要な知識 3, ステロイド投与時および周術期の血糖管理：日本糖尿病学会編. 糖尿病学の進歩 2010, 第 44 集, 東京：診断と治療社；2010 年：71－75.
11) 森田浩之. ミズーリ大学への留学(アメリカ合衆国　コロンビア)：岐阜大学教養教育推進センター編. 日本脱出！留学のすすめ教養　ブックレット Vol.3, 岐阜：(株)みらい；2010 年：84－85.
12) 石塚達夫, 池上博司, 内村　功, 佐倉　宏, 西川武志, 濱田洋司, 檜尾好徳, 森田浩之, 吉岡成人. 日本糖尿病学会編：糖尿病学用語集　第 3 版, 東京：文光堂；2011 年.
13) 石塚達夫. BG 薬とα-GI 薬の効果的な用い方と留意点：管理と治療からみた対糖尿病戦略, 糖尿病 UP・DATE　賢島セミナー27, 糖尿病治療薬のイノベーション　病態に応じた選択と治療のすすめ方, 東京：時事通信社；2011 年：102－111.
14) 堀田　饒, 河盛隆造, 石塚達夫, 住田安弘, 荒木栄一. 管理と治療からみた対糖尿病戦略, 糖尿病 UP・DATE　賢島セミナー27, 糖尿病治療薬のイノベーション　病態に応じた選択と治療のすすめ方, 東京：時事通信社；2011 年：132－151.

著書（欧文）

1) Ishizuka T, Kajita K, Fujioka K, Hanamoto T, Ikeda T, Mori I, Yamauchi M, Okada H, Usui T, Takahashi N, Morita H, Uno Y, Miura A. Effect of dehydroepiandrosterone on insulin sensitivity and adipocyte growth in Otsuka Long-Evans Tokushima-Fatty Rats, In: Zimering MB, ed, Topics in the Prevention Treatment and Complications of Type 2 Diabetes, Rijeka, Croatia: InTech; 2011:127-144.

総説（和文）

1) 石塚達夫. 第 61 回学術の集い, 肥満, 2 型糖尿病と脂肪肝－NAFLD・NASH の診断と治療－, 名古屋内科医会会誌　2009 年；132 号：46－56.
2) 石塚達夫. インスリン注射に不安をもつ 2 型糖尿病患者のマネジメント, 治療　2009 年；91 巻(臨増)：186－187.
3) 石塚達夫. 総合内科専門医とプライマリ・ケアー現実をみつめ, 将来の展望へー, 日本内科学会雑誌　2009 年；98 巻：182－186.
4) 森田浩之. JTTA 2008 in GIFU を終えて, 日本遠隔医療学会雑誌　2009 年；5 巻：44－45.
5) 石塚達夫. 2010 年度役員紹介, 理事挨拶, 日本遠隔医療学会雑誌　2010 年；6 巻：81.
6) 石塚達夫, 福沢嘉孝, 岩砂和雄, 北村和也, 竹村洋典, 森田浩之, 保住　功, 宇野嘉弘, 加藤純大, 井上昌夫. 第 8 回東海支部内科専門医部会教育セミナー, プライマリ・ケアと総合医, 日本内科学会雑誌　2010 年；99 巻：176－182.
7) 石塚達夫, 杉本元信, 田妻　進, 内藤俊夫, 古庄憲浩. 座談会　大学病院における総合診療科/部はどうあるべきか, 臨牀と研究　2010 年；87 巻：166－177.
8) 石塚達夫. 症候からみた診断ロジック戦略的片頭痛診断・治療, 意識障害治療　2011 年；93 巻：67－73.
9) 石塚達夫. リウマチ診療の進歩, 内科会だより　2011 年.
10) 野方文雄, 河村洋子, 森田浩之, 宇野嘉弘. シリーズ　医工連携を歩く「第 17 回」頸動脈 4 次元画像化と硬化評価システムの開発, 映像情報 Industrial　2011 年；43 巻：50－53.
11) 野方文雄, 河村洋子, 森田浩之, 宇野嘉弘. シリーズ　医工連携を歩く「第 17 回」頸動脈 4 次元画像化と硬化評価システムの開発, 映像情報 Medical　2011 年；43 巻：909－912.

総説（欧文）
なし

原著（和文）

1) 池田貴英, 藤岡　圭, 森　一郎, 宮内ルミ子, 宇野嘉弘, 森田浩之, 梶田和男, 石塚達夫. 吸収不良症候群, 蛋白漏出性胃腸症を合併した関節リウマチの 1 例, 日本内科学会雑誌　2009 年；98 巻：138－140.
2) 石塚達夫, 福沢嘉孝, 牛越博昭, 川田憲一, 長浜貴彦, 難波大夫, 宮崎　仁. 第 5 回東海支部内科専門医部会教育セミナー, プライマリ・ケアにおける疼痛疾患の診断, 日本内科学会雑誌　2009 年；98 巻：199－206.
3) 森田浩之, 宇野嘉弘, 石塚達夫, 松原健治. シリーズ：考えてみよう－持続性の右上腹部痛を主訴に来院した 62 歳の男性－, 日本内科学会雑誌　2009 年；98 巻：207－208, 236－238.
4) 紀ノ定保臣, 藤岡　圭, 森田浩之, 石塚達夫. 内視鏡を含めた医療データベースの進歩, 消化器内視鏡 2009 年；21 巻：993－1001.
5) 藤岡　圭, 岡田英之, 藤掛貴敏, 森　一郎, 池田貴英, 宮内ルミ子, 松原健治, 宇野嘉弘, 梶田和男, 森田浩之, 石塚達夫. 中枢神経徴候で発症した ACTH 単独欠損症の 2 例, 日本内分泌学会雑誌　2009 年；85 巻 (Suppl)：38－41.
6) 森　一郎, 梶田和男, 池田貴英, 藤岡　圭, 宇野嘉弘, 森田浩之, 石塚達夫. 副腎アンドロゲン, dehydroepiandrosterone のアンドロゲン受容体を介した脂肪細胞増殖抑制効果, 岐阜県内科医会雑誌 2009 年；23 巻：71－74.
7) 森田浩之, 宇野嘉弘, 吉川　新, 梶田和男, 藤岡　圭, 岡田英之, 山内雅裕, 花本貴幸, 石塚達夫. 在宅健康管理システムの活性化　－質問とメッセージによるユーザと管理者の双方向利用－, 日本遠隔医療学会雑誌　2009 年；5 巻：238－240.
8) 森田浩之, 宇野嘉弘, 梶田和男, 藤岡　圭, 岡田英之, 山内雅裕, 花本貴幸, 石塚達夫. 携帯電話を利用した ecological momentary assessment は疾病をどの程度改善できるか？日本遠隔医療学会雑誌　2009 年；5 巻：124－125.
9) 影山慎一, 井口光孝, 大曲貴夫, 鶴見　寿, 高木健裕, 佐藤元紀, 藤木　源, 牛田　宣, 保井光仁, 兼松孝好, 今泉貴広, 鈴木富雄, 袴田康弘, 石塚達夫, 草深裕光. 第 6 回東海支部内科専門医部会教育セミナー, 発熱・腰痛が半年間持続する 56 歳の男性, 日本内科学会雑誌　2009 年；98 巻：187－194.
10) 石塚達夫, 福沢嘉孝, 朝田和博, 井本一郎, 高橋茂清, 渡辺宏久, 中川直樹, 宇野嘉弘, 森田浩之. 第 7 回東海支部内科専門医部会教育セミナー(まとめ), 最新の画像診断, 日本内科学会雑誌　2009 年；98 巻：167－175.
11) 岡田英之, 藤掛貴敏, 藤岡　圭, 森　一郎, 池田貴英, 森田浩之, 梶田和男, 石塚達夫, 長井孝太郎, 蔦谷昭司. サイアザイド感受性 Na - CI 共輸送体遺伝子に新規の変異を確認した Gitelman 症候群の 1 例. 日本内科学会雑誌　2010 年；99 巻：152－154.
12) 岡田浩之, 宇野嘉弘, 池田貴英, 岡田英之, 山内雅裕, 森　一郎, 高橋典子, 臼井太朗, 梶田和男, 石塚達夫. 携帯電話 ecological momentary assessment の肥満 2 型糖尿病に対する効果. 日本遠隔医療学会雑誌 2010 年；6 巻：123－124.
13) 宇野嘉弘, 森田浩之, 梶田和男, 岡田英之, 藤岡　圭, 山内雅裕, 花本貴幸, 石塚達夫. 心肺音シミュレータ「イチロー」による, 卒後研修医に対する心臓聴診における, 基本的臨床診察技能教育の検証. 日本病院総合診療医学会雑誌　2010 年；1 巻：46－47.
14) 森田浩之, 梶田和男, 藤岡　圭, 岡田英之, 山内雅裕, 花本貴幸, 石塚達夫, 宇野嘉弘. 在宅健康管理システムの利用活性化. 日本病院総合診療医学会雑誌　2010 年；1 巻：52－53.
15) 梶田和男, 森　一郎, 岡田英之, 花本貴幸, 山内雅裕, 藤岡　圭, 宇野嘉弘, 森田浩之, 石塚達夫. ケトアシドーシスとの鑑別を要した周期性嘔吐症合併 2 型糖尿病の 1 例. 日本病院総合診療医学会雑誌　2010 年；1 巻：71－72.
16) 奥村陽子, 松本茂美, 吉田隆浩, 熊田恵介, 川口順敬, 宇野嘉弘, 山田隆司, 山田卓也, 金子英雄, 村上啓雄, 犬塚　貴. 岐阜大学医学部地域医療医学センターにおける地域医療研修のとりくみと研修医及び指導医アンケート調査　地域医学　2011 年；25 巻：56－61.
17) 石塚達夫, 福沢嘉孝, 村上啓雄, 橋本迪子, 坂部茂俊, 大曲貴夫, 玉川達雄. 第 10 回東海支部教育セミナーまとめ, 注目すべき感染症　日本内科学会雑誌　2011 年；100 巻：1434－1442.
18) 松本茂美, 奥村陽子, 清島真理子, 熊田恵介, 吉田隆浩, 川口順敬, 宇野嘉弘, 山田隆司, 山田卓也, 金子英雄, 村上啓雄, 犬塚　貴. 岐阜県における病院内保育所の現状　地域医学　2011 年；25 巻：558－562.
19) 田口皓一郎, 久保田一生, 伊藤裕子, 木村　豪, 寺本貴英, 加藤善一郎, 近藤直実. 小児の原発性皮膚ノカルジア症の 1 例, 小児科診療　2011 年；74 巻：322－326.
20) 森田浩之, 岡田宏基, 辻　正次, 郡　隆之, 柏木賢治, 斎藤勇一郎, 長谷川高志, 滝沢正臣, 太田隆正, 峰滝和典, 米澤麻子, 酒巻哲夫. 在宅脳血管疾患・がん患者を対象とした遠隔診療－多施設後ろ向き症例対照研究－在宅脳血管疾患・がん患者を対象とした遠隔診療－多施設後ろ向き症例対照研究－, 日本遠隔医療学会雑誌　2011 年；7 巻：39－44.
21) 岡　宏次, 鈴木晶子, 袴田康弘, 廣瀬武司, 香村彰宏, 池上　良, 尾辺利英, 宮崎晋一, 青沼宏深, 藤井恒宏, 鈴木富雄, 石塚達夫. 第 11 回東海支部専門医部会教育セミナー原因不明の頭痛・倦怠感で入院し, 入院後に胸痛と片麻痺を発症した 81 歳女性, 日本内科学会雑誌　2011 年；100 巻：2302－2311.
22) 長谷川高志, 酒巻哲夫, 辻　正次, 岡田宏基, 森田浩之, 郡　隆之, 柏木賢治, 斎藤勇一郎, 米澤麻子, 峰滝和典, 滝沢正臣, 太田隆正, 山口義正, 岩澤由子, 菅原英次, 東福寺幾夫. 厚生労働省科学研究費補助金研

究・遠隔医療研究班　2010 年度研究報告ー遠隔診療の社会的進展，日本遠隔医療学会雑誌　2011 年；7 巻：132－135.

23）梶田和男，森　一郎，岡田英之，臼井太朗，山内雅裕，高橋典子，宇野嘉弘，森田浩之，石塚達夫．ロサルタン，エナラプリルとアムロジピン投与による血小板凝集能への影響，日本病院総合診療医学会雑誌　2011 年；2 巻：34－35.

24）森田浩之，池田貴英，森　一郎，岡田英之，臼井太朗，高橋典子，山内雅裕，藤岡　圭，宇野嘉弘，梶田和男，石塚達夫．当科における発熱患者，日本病院総合診療医学会雑誌　2011 年；2 巻：49－50.

25）石塚達夫，福沢嘉孝，安藤貴文，後藤秀実，大野　康，袴田康弘，松本勝久，臼井康臣，森田浩之，大野善太郎．第 12 回東海支部内科専門医部会教育セミナー免疫異常による内科疾患，日本内科学会雑誌　2011 年；100 巻：3373-3380.

26）山内雅裕，高橋典子，臼井太朗，岡田英之，森　一郎，池田貴英，宇野嘉弘，森田浩之，梶田和男，石塚達夫．タクロリムスが有効であった MPO－ANCA 陽性脊髄肥厚性硬膜炎の 1 例，日本病院総合診療医学会雑誌 2011 年；2 巻：103－104.

27）池田貴英，臼井太朗，高橋典子，岡田英之，森　一郎，山内雅裕，宇野嘉弘，森田浩之，梶田和男，石塚達夫．感染性心内膜炎術後に脾動脈瘤を発症した 1 例，日本病院総合診療医学会雑誌　2011 年；2 巻：128－129.

28）森田浩之．発熱患者の診方・考え方，岐阜県内科医会雑誌　2011 年；25 巻：29－57.

29）池田貴英，梶田和男，森　一郎，臼井太朗，高橋典子，岡田英之，山内雅裕，藤岡　圭，宇野嘉弘，梶田和男，石塚達夫．旋毛虫感染による耐糖能改善効果に関する検討，岐阜県内科医会雑誌　2011 年；25 巻：77－80.

原著（欧文）

1）Wu Z, Nagano I, Kajita K, Nishina M, Takahashi Y. Hypoglycaemia induced by Trichinella infection is due to the increase of glucose uptake in infected muscle cells. Int J Parasitol. 2009;39:427-434.　IF 3.822

2）Ikeda T, Kajita K, Zhiliang W, Hanamoto T, Mori I, Fujioka K, Okada H, Fujikake T, Uno Y, Morita H, Nagano I, Takahashi Y, Ishizuka T. Effects of phorbol ester-sensitive PKC (c/nPKC) activation on the production of adiponectin in 3T3-L1 adipocytes. IUBMB Life. 2009;61:644-650.　IF 4.251

3）Ohashi M, Shu E, Tokuzumi M, Fujioka K, Ishizuka T, Hara A, Fujimoto M, Kaji K, Seishima M. Anti-p155/140 antibody-positive dermatomyositis with metastasis originating from an unknown site. Acta Derm Venereol. 2011;91:84-85.　IF 3.010

4．研究費獲得状況

1）競争的資金

1）研究代表者：酒巻哲夫，研究分担者：原量　宏，吉田晃敏，辻　正次，岡田宏基，森田浩之，本間聡起，長谷川高志；厚生労働科学研究費補助金：在宅医療への遠隔医療実用実施手順の策定；平成 21 年度；5,000 千円

2）研究代表者：石塚達夫，研究分担者：清島　満，清島真理子，山内雅裕，藤岡　圭，村瀬香奈，梶田和男，永田浩一；岐阜大学大学院医学系研究科多分野共同研究「プロジェクトチーム」：p140Cao のインスリン分泌における役割解明プロジェクト：膵βcell における p140Cap のインスリン分泌における役割：平成 21 年度；1,000 千円

3）研究代表者：森田浩之，研究分担者：石塚達夫，宇野嘉弘；科学研究費補助金基盤研究(C)：メタボリックシンドローム患者の行動変容ー携帯電話 EMA の効果ー；平成 22－23 年度；2,860 千円(1,430：1,430 千円)

4）研究代表者：小島　至，研究分担者：梶田和男，石塚達夫，森　一郎，梶田淑子；成熟脂肪細胞の増殖因子としての，proliferin(PLF)の意義に関する検討；群馬大学生体調節研究所内分泌・代謝学共同研究拠点共同研究；平成 22－23 年度：1,200 千円(900：300 千円)

5）研究代表者：梶田和男；大学活性化経費(研究：科研採択支援)；成熟脂肪細胞の増殖因子としてのプロリフェリンの意義；平成 23 年度；1,000 千円

6）研究代表者：酒巻哲夫，研究分担者：辻　正次，岡田宏基，森田浩之，柏木賢治，郡　隆之，齋藤勇一郎，石塚達夫；厚生労働科学研究費補助金：遠隔医療技術活用に関する諸外国と我が国の実態の比較調査研究；平成 22－23 年度；20,000 千円(10,000：10,000 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

1）石塚達夫，森田浩之，梶田和雄，花本貴幸，山内雅裕，藤岡　圭，岡田英之，宮内ルミ子，谷本真由実：在宅血圧・心電図の長期データとイベント発症との関連；平成 21 年度：1,200 千円：イセット(株)

2） 石塚達夫，森田浩之，梶田和男，池田貴英：在宅血圧・心電図の長期データとイベント発症との関連；平成 23 年度；1,200 千円：イセット(株)

5. 発明・特許出願状況

1） 野方文雄，森田浩之，宇野嘉弘：発明の名称：補正装置；平成 18 年出願(特許第 4729706 号)平成 23 年登録

6. 学会活動

1）学会役員

石塚達夫：

1） 日本内科学会評議員(～現在)
2） 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
3） 日本内科学会専門医部会東海支部長(～現在)
4） 日本内科学会専門医部会役員(～現在)
5） 日本糖尿病学会学術評議員(～現在)
6） 日本糖尿病学会「治療の手びき」編集委員会委員(～現在)
7） 日本糖尿病学会糖尿病用語集編集会委員長(～現在)
8） 日本糖尿病学会“糖尿病対策地域担当委員”(～現在)
9） 日本糖尿病学会中部支部専門医委員会委員(～現在)
10） 日本糖尿病協会国際委員(～現在)
11） 日本糖尿病療養指導士認定機構認定委員会委員(～現在)
12） 日本内分泌学会代議員(～現在)
13） 日本内分泌学会東海支部監事(～現在)
14） 日本病態栄養学会評議員(～現在)
15） 日本遠隔医療学会理事(～平成 23 年 6 月)
16） 日本病院総合診療医学会理事(平成 21 年 10 月～現在)
17） 日本糖尿病療養指導士認定機構試験委員会委員(～現在)

宇野嘉弘：

1） 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
2） 日本病院総合診療医学会評議員(平成 21 年 12 月～現在)

森田浩之：

1） 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
2） 日本糖尿病学会評議員(～現在)
3） 日本糖尿病学会糖尿病用語集編集委員(～現在)
4） 日本糖尿病学会専門医認定委員会委員(平成 21 年 4 月～現在)
5） 日本内分泌学会代議員(～現在)
6） 日本ステロイドホルモン学会評議員(～現在)
7） 日本病態栄養学会評議員(～現在)
8） 日本病院総合診療医学会評議員(平成 21 年 12 月～現在)
9） 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医試験問題作成委員会世話人(～平成 22 年 11 月)
10） 日本遠隔医療学会理事(平成 23 年 7 月～現在)

梶田和男：

1） 日本内科学会東海支部評議員(～現在)
2） 日本内分泌学会代議員(～現在)
3） 日本病態栄養学会評議員(～現在)
4） 日本病院総合診療医学会評議員(平成 21 年 12 月～現在)

2）学会開催

石塚達夫：

1） 第 207 回日本内科学会東海支部地方会併催第 6 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 21 年 2 月，

津)
2) 第 8 回日本内分泌学会東海支部学術集会(平成 21 年 3 月，岐阜)
3) 第 208 回日本内科学会東海支部地方会併催第 7 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 21 年 6 月，名古屋)
4) 第 209 回日本内科学会東海支部地方会併催第 8 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 21 年 10 月，岐阜)
5) 第 210 回日本内科学会東海地方会併催第 9 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 22 年 2 月，名古屋)
6) 第 212 回日本内科学会東海地方会併催第 10 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 22 年 10 月，名古屋)
7) 第 213 回日本内科学会東海地方会併催第 11 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 23 年 2 月，津)
8) 第 214 回日本内科学会東海地方会併催第 12 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 23 年 6 月，名古屋)
9) 第 215 回日本内科学会東海地方会併催第 13 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 23 年 10 月，岐阜)

3）学術雑誌

石塚達夫：
1) 日本病院総合診療医学会雑誌；編集委員(平成 22 年 10 月～現在)
2) 日本遠隔医療学会雑誌：編集委員長(平成 23 年 10 月～現在)

森田浩之：
1) 日本遠隔医療学会雑誌；編集委員(～現在)

森　一郎：
1) 日本遠隔医療学会雑誌；編集委員(平成 23 年 10 月～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

石塚達夫：
1) 第 43 回糖尿病学の進歩(平成 21 年 2 月，松本,「神経障害」座長)
2) 第 17 回日本総合診療医学会学術集会(平成 21 年 2 月，福岡，教育講演「総合診療の視点から見た胃食道逆流症(GERD)」座長)
3) 第 8 回日本内分泌学会東海支部学術集会(平成 21 年 3 月，岐阜，ランチョンセミナー「コルチゾールの基礎と臨床」座長)
4) 第 52 回日本糖尿病学会年次学術集会(平成 21 年 5 月，大阪，教育講演「糖尿病性自律神経障害」座長)
5) 第 208 回日本内科学会東海支部地方会併催第 7 回東海支部専門医部会教育セミナー（平成 21 年 6 月，名古屋，シンポジウム「最新の画像診断」座長）
6) 第 209 回日本内科学会東海支部地方会併催第 8 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 21 年 10 月，岐阜，シンポジウム「プライマリ・ケアと総合医」座長）
7) 第 1 回日本病院総合診療医学会学術総会(平成 22 年 2 月，福岡，講演「総合診療医からみた糖尿病治療と現状と課題～DPP4 阻害薬への期待を含めて～」演者)
8) 第 44 回糖尿病学の進歩(平成 22 年 3 月，大阪，講演「糖尿病診療に必要な知識 3　ステロイド使用時及び周術期の血糖管理」演者)
9) 第 212 回日本内科学会東海地方会併催第 10 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 22 年 10 月，名古屋，教育セミナー「注目すべき感染症」座長)
10) 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会(平成 23 年 5 月，札幌，教育講演「インスリン療法の up to date」座長)
11) 第 214 回日本内科学会東海地方会併催第 12 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 23 年 6 月,名古屋，教育セミナー「免疫異常による内科疾患」座長)
12) 第 3 回日本病院総合診療医学会学術総会(平成 23 年 9 月，東京，シンポジウム「総合診療科(部)における臨床研究」座長)

森田浩之：
1） 第 17 回日本総合診療医学会学術集会(平成 21 年 2 月，福岡，一般演題，座長)
2） 第 52 回日本糖尿病学会年次学術集会(平成 21 年 5 月，大阪，一般演題「運動療法 1」座長)

宇野嘉弘：
1） 第 215 回日本内科学会東海地方会併催第 13 回東海支部専門医部会教育セミナー(平成 23 年 10 月，岐阜，教育セミナー「研修指導医のための心音教育セミナー」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

1） 森田浩之：平成 21 年度日本遠隔医療学会優秀論文賞(平成 21 年度)

9. 社会活動

石塚達夫：
1） 岐阜県糖尿病対策推進協議会副会長(～現在)
2） 岐阜県医師会糖尿病対策委員会委員(～現在)

森田浩之：
1） 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(平成 22 年度)

10. 報告書

1） 森田浩之：Skype を用いた遠隔診療の実際：在宅医療への遠隔医療実用実施手順の策定：平成 21 年度厚生労働省科学研究費補助金　総括・分担報告書(酒巻班)：29－37(平成 21 年 3 月)
2） 森田浩之：携帯電話を利用した ecological momentary assessment に関する研究：厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業) 平成 21 年度総合報告書(酒巻班) 在宅医療への遠隔医療実用実施手順の策定の研究(H20－医療-一般-034) 平成 20～21 年度　総合研究報告書：57－66(平成 22 年 3 月)
3） 森田浩之：携帯電話を利用した ecological momentary assessment に関する研究：厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)　平成 21 年度分担研究年度終了報告書(酒巻班) 在宅医療への遠隔医療実用実施手順の策定の研究(H20－医療-一般-034) 平成 21 年度　総括・分担研究報告書：67－76(平成 22 年 3 月)
4） 野方文雄，横田康成，河村洋子，森田浩之，宇野嘉弘：心臓運動を見る計測技術－胸部微小振動にもとづく可視化－：平成 22 年度岐阜大学人間医工学研究開発センター成果報告書：イメージ＆機能解析部門：9－10(平成 23 年 3 月)
5） 酒巻哲夫，辻　正次，岡田宏基，森田浩之，柏木賢治，郡　隆之，斎藤勇一郎，滝沢正臣，太田隆正，峰滝和典，東福寺幾夫，田中志子，長谷川高志，岩澤由子：厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)　遠隔医療技術活用に関する諸外国と我が国の実態の比較調査研究(H22－医療-指定-043)：平成 22 年度総括・分担研究報告書(平成 23 年 3 月)

11. 報道

1） 石塚達夫：～遠隔医療ガイドライン策定～JTTA2008 in Gifu 平成 20 年度日本遠隔医療学会記事，Medical Tribune (2009 年 1 月 1 日)
2） 石塚達夫：ステロイド使用時及び周術期野血糖管理：DITN, 387, 8 (2010 年 6 月 5 日)
3） 石塚達夫：特集＝病院総合診療医による研究と臨床の最前線，内分泌・代謝領域　～糖尿病に関連して～, MEDICAMENT NEWS, 2018, 7－10(2010 年 6 月 15 日)
4） 梶田和男：「研究室から　大学はいま」：脂肪細胞，限りない可能性　岐阜新聞(2011 年 3 月 8 日)
5） 森田浩之：先生こんにちは～　KNG(社団法人日本リウマチ友の会岐阜県支部特集)(2011 年 8 月号：12－13)

12. 自己評価

評価

2012 年 3 月で総合診療部開設 13 年となり，総合病態内科学分野となってからでも 8 年となる。 医局も附属病院から医学部に 2006 年 4 月に移転し，ラボを持てたことによって基礎的研究が可能になった。現在では，総合内科的な見地から特色のある研究を基礎・臨床の両面から行っている。 少ない教室員の

人数を勘案すると，大学院生に対する研究指導，国際学会での発表等に関しては標準レベルであると考えている。しかし，総合病態内科学分野としての社会的な認知や独自性を考えると，外部資金，論文，特許，研究や発明に関する新聞報道はまだまだ少ない。

現状の問題点及びその対応策

人的余裕がなく，研究立案，研究費申請，データ収集・解析，論文記載など，研究に費やす時間がかなり不足しているのが現状である。役割分担を明確化し，仕事の重複が少なくなるように見直し，効率化を計って英語論文数を増やしてゆきたい。人的不足に対しては，臨床研修や臨床実習に力を入れることによって，総合内科の役割や魅力を研修医や医学生に認識してもらい，多くの入局者を迎えられるように努力してゆきたい。社会的な認知度不足に対しては，特に地域医療や臨床疫学について学会での発表や論文化とともに，新聞社への報道依頼も積極的に行ってゆきたい。また，ホームページによる情報提供は有効な手段であるため，是非充実させていきたい。

今後の展望

医局員も徐々にではあるが増えてきて，研究環境も整ってきている。 臨床の場から生まれる疑問を発端とし，総合内科として特徴的な基礎研究と臨床研究を推進してゆきたい。基礎研究では思いがけない着想から発して，種々の研究手法を駆使して多面的に検討したレベルの高い研究を行ってゆきたい。臨床研究では，全国の総合内科医とネットワークを形成し，複数の施設で複数の共同研究を同時に行い，臨床的エビデンスを発信してゆきたい。

（3）臨床薬剤学分野

1. 研究の概要

臨床薬剤学分野における研究項目は，1）医薬品等の定量法の確立に関する研究，2）薬物体内動態の解析に基づく医薬品適正使用推進に関する研究，3）医薬品の新規剤型の開発とその臨床応用に関する研究，4）医療情報システムを活用した医療安全確保に関する研究，5）抗がん剤に対する耐性発現の細胞内メカニズムの解明に関する研究, 6）抗がん剤による副作用発現メカニズムの解明と予防・治療法の確立に関する研究，さらには7）既存の医薬品から新規の作用を発見し医薬品開発に繋げる drug re-profiling 研究などである。医薬品等の定量に関する研究では，高速液体クロマトグラフィー（HPLC）と蛍光検出器，電気化学検出器，紫外吸光光度計，エレクトロスプレー・タンデムマススペクトロメトリーやガスクロマトグラフィーなどの測定機器を駆使することにより，アセトアミノフェンやベンゾジアゼピンなどの中毒患者での定性ならびに血中濃度測定のみならず，生体内スフィンゴリン脂質の定量に活用している。また，薬物体内動態の解析に基づく医薬品適正使用推進に関する研究では，抗 MRSA 薬のバンコマイシンやテイコプラニンの初期不可投与設計に関する研究，救急領域における重症患者での腎機能の指標としてシスタチン C を用いた糸球体ろ過量の推測式から抗菌薬の TDM（投与量や投与法の決定）の確立などの研究を行っている。新規剤型の開発に関する研究では，岐阜県内の企業（株）ツキオカとの共同研究で制吐剤のデキサメタゾンやプロクロルペラジンを含む超薄型口腔内速溶解フィルム製剤を開発し，これをがん化学療法時における悪心・嘔吐予防薬として適用するための研究を進めている。医療情報システムを活用した医療安全確保に関する研究では，コンピュータを内蔵した抗がん剤注射薬の混合調製のための安全キャビネットを世界で初めて開発し，抗がん剤の取り間違いや投与量間違いによる医療過誤の防止に役立てている。また，抗がん剤に対する耐性発現に関する研究では，医学部や岐阜薬科大学との共同研究において，大腸がん細胞でのオキサリプラチンに対する耐性に細胞内セラミド代謝酵素のスフィンゴシンキナーゼの過剰発現が関与することを見い出し，セラミドに関連する細胞内シグナルと耐性発現との関連について研究を進めている。Drug re-profiling 研究では，がん患者での放射線化学療法による口内炎に対して亜鉛含有化合物であるポラプレジンクが優れた予防効果を発揮することを見い出し，口腔内貼付剤もしくは懸濁剤の剤型で「口内炎予防薬」として開発するプロジェクトを製薬企業および（株）ツキオカとの共同研究により進めている。

2. 名簿

教授：　伊藤善規　　Yoshinori Itoh

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1）伊藤達雄，伊藤善規(分担執筆)．モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト，東京：じほう；2009 年.
2）伊藤善規，岡安伸二(分担執筆)．山本眞由美監修．大学生の健康ナビ　キャンパスライフの健康管理，岐阜：岐阜新聞社；2009 年.
3）足立哲夫，網岡克雄(分担執筆)．2009 年版 実習に行く前の覚える医薬品集－服薬指導に役立つ－．東京：廣川書店；2009 年.
4）伊藤善規，安田浩二(分担執筆)．福田　保，他編集；第 5 版　疾患と今日の処方，東京：医歯薬出版；2009 年.
5）伊藤善規(分担執筆)．モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト，じほう；2010 年.
6）足立哲夫，網岡克雄(分担執筆)．2010 年版 実習に行く前の覚える医薬品集－服薬指導に役立つ－．廣川書店；2010 年.
7）飯原大稔(分担執筆)．最新制吐対策．月刊薬事，東京：じほう；2011 年.
8）飯原大稔(分担執筆)．外来患者の服薬支援：支持療法(イメンド)の処方患者　調剤と情報，東京：じほう；2011 年.
9）伊藤善規，安田浩二他(分担執筆)．松田重三，他編集．薬学生のための臨床実習マニュアル，東京:医学評論社；2011 年.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1）丹羽　隆，伊藤善規．感染制御トピックス〔2〕医療関連感染サーベイランス，月刊薬事　2009 年；51 巻：1849－1852.

2) 鈴木昭夫, 丹羽　隆, 伊藤善規. 患者の腎・肝・心機能を考慮した投与設計, 月刊薬事　2009 年；51 巻：1853－1857.
3) 丹羽　隆, 伊藤善規. 感染制御のテクニックー②院内ラウンドでの介入, 抗 MRSA 薬　薬局　2009 年；60 巻：2559－2564.
4) 丹羽　隆, 伊藤善規. メカニズムから理解する疾患と薬物治療：尿路感染症, ApoTalk　2009 年；8 巻：6－7.
5) 松田公子, 宮本　篤, 伊藤善規, 江口久恵, 大倉輝明, 加勢泰子, 下村光一, 白石　正, 丹原敏男, 仲村スイ子, 早狩　誠, 松原和夫, 源川奈穂, 堀内龍也. 医療の質向上のためのチーム医療への薬剤師の関与とその成果に関する論文実例集(1)がん化学療法領域における薬剤師の取り組みと成果, 日本病院薬剤師会雑誌 2011 年；47 巻：983－1002.
6) 松田公子, 宮本　篤, 伊藤善規, 江口久恵, 大倉輝明, 加勢泰子, 下村光一, 白石　正, 丹原敏男, 仲村スイ子, 早狩　誠, 松原和夫, 源川奈穂, 堀内龍也. 医療の質向上のためのチーム医療への薬剤師の関与とその成果に関する論文実例集(2)感染制御領域における薬剤師の取り組みと成果, 日本病院薬剤師会雑誌 2011 年；47 巻：1231－1240.
7) 松田公子, 宮本　篤, 伊藤善規, 江口久恵, 大倉輝明, 加勢泰子, 下村光一, 白石　正, 丹原敏男, 仲村スイ子, 早狩　誠, 松原和夫, 源川奈穂, 堀内龍也. 医療の質向上のためのチーム医療への薬剤師の関与とその成果に関する論文実例集(3)TDM 領域, 日本病院薬剤師会雑誌　2011 年；47 巻：1373－1383.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1) 渡辺享平, 野村佳代, 大津史子, 後藤伸之, 須田範行, 松浦克彦, 宮崎靖則, 山川雅之, 山口雅也, 渡辺一宏, 中村敏明, 政田幹夫. センチネルリンパ節生検用色素製剤の市販化に向けた使用・調製実態調査, 医療薬学 2009 年；35 巻：722－728.
2) 下田浩欣, 松浦克彦, 伊藤善規. タダラフィル錠(アドシルカ â 錠 20 mg) 粉砕時の安定性に関する試験, 日本病院薬剤師会　2010 年；46 巻：1374－1376.
3) 大林浩幸, 宮川武彦, 古井秀彦, 小林　博, 松浦克彦, 伊藤善規. 岐阜県病院薬剤師会登録の全施設における院内吸入指導の実態調査, 岐阜県医師会医学雑誌　2011 年；24 巻：83－90.

原著（欧文）
1) Taguchi K, Iihara H, Ishihara M, Komori Y, Tanizawa K, Matsuura K, Itoh Y. Comparison of antiemetic efficacy between single and repeated treatments with a 5-HT_3 receptor antagonist in breast cancer patients with high-risk emetogenic chemotherapy. Anticancer Res. 2009;29:1721-1725. IF 1.656
2) Niwa T, Suzuki A, Sakakibara S, Kasahara S, Yasuda M, Fukao A, Matsuura K, Goto C, Itoh Y. Implication of body mass index and renal dysfunction in linezolid-induced thrombocytopenia. Clin Ther. 2009;31:2126-2133. IF 2.551
3) Okayasu S, Nakamura M, Chigusa K, Sakurai K, Matsuura K, Yamamoto M, Kinosada Y, Itoh Y. Development of computer-assisted biohazard safety cabinet for preparation and verification of injectable anticancer agents. Chemotherapy. 2009;55:234-240. IF 2.108
4) Nishimura M, Matsuura K, Tsukioka T, Yamashita H, Inagaki N, Sugiyama T, Itoh Y. In vitro and in vivo characteristics of prochlorperazine oral disintegrating film. Int J Pharmac. 2009;368:98-102. IF 3.607
5) Shimoda H, Taniguchi K, Nishimura M, Matsuura K, Tsukioka T, Yamashita H, Inagaki N, Hirano K, Yamamoto M, Kinosada Y, Itoh Y. Preparation of a fast dissolving oral thin film containing dexamethasone: a possible application to antiemesis during cancer chemotherapy. Eur J Pharm Biopharm. 2009;73:361-365. IF 4.304
6) Kawashiri T, Egashira N, Itoh Y, Shimazoe T, Ikegami Y, Yano T, Yoshimura M, Oishi R. Neurotropin reverses the paclitaxel-induced neuropathy without affecting anti-tumour efficacy. Eur J Cancer. 2009;45:154-163. IF 4.944
7) Ishihara M, Naoi K, Hashita M, Itoh Y, Suzui M. Growth inhibitory activity of ethanol extracts of Chinese and Brazilian propolis in four human colon carcinoma cell lines. Oncol Rep. 2009;22:349-354. IF 1.686
8) Nakamura M, Ohmori T, Itoh Y, Terashita M, Hirano K. Simultaneous determination of benzodiazepines and their metabolites in human serum by liquid chromatography-tandem mass spectrometry using a high-resolution octadecyl silica column compatible with aqueous compounds. Biomed Chromatogr. 2009;23:357-364. IF 1.545
9) Yano T, Itoh Y, Kawamura E, Maeda A, Egashira N, Nishida M, Kurose H, Oishi R. Amphotericin B-induced renal tubular cell injury is mediated by Na^+ influx through ion-permeable pores and subsequent activation of MAP kinases and elevation of intracellular Ca^{2+}. Antimicrob Agents Chemother. 2009;53:1420-1426. IF 4.672
10) Nemoto S, Nakamura M, Osawa Y, Kono S, Itoh Y, Okano Y, Murate T, Hara A, Ueda H, Nozawa Y, Banno Y. Sphingosine kinase isoforms regulate oxaliplatin sensitivity of human colon cancer cells through ceramide accumulation and Akt activation. J Biol Chem. 2009;284:10422-10432. IF 5.328
11) Ishihara M, Iihara H, Okayasu S, Yasuda K, Matsuura K, Suzui M, Itoh Y. Pharmaceutical

interventions facilitate premedication and prevent opioid-induced constipation and emesis in cancer patients. Support Care Cancer. 2010;18:1531-1538. IF 2.058

12) Maeda A, Yano T, Itoh Y, Kakumori M, Kubota T, Egashira N, Oishi R. Down-regulation of RhoA is involved in the cytotoxic action of lipophilic statins in HepG2 cells. Atherosclerosis 2010;208:112-118. IF 4.086

13) Naoi K, Sunagawa N, Morioka T, Nakashima M, Ishihara M, Fukamachi K, Itoh Y, Tsuda H, Yoshimi N, Suzui M. Enhancement of tongue carcinogenesis in Hras128 transgenic rats treated with 4-nitroquinoline 1-oxide. Oncol Rep. 2010;23:337-344. IF 1.686

14) Niwa T, Imanishi Y, Ohmori T, Matsuura K, Murakami N, Itoh Y. Significance of individual adjustment of initial loading dosage of teicoplanin based on population pharmacokinetics. Int J Antimicrob Agent. 2010;35:507-510. IF 3.787

15) Watanabe T, Ishihara M, Matsuura K, Mizuta K, Itoh Y. Polaprezinc prevents oral mucositis associated with radiochemotherapy in patients with head and neck cancer. Int J Cancer. 2010;127:1984-1990. IF 4.926

16) Suzuki A, Imanishia Y, Nakano S, Niwa T, Ohmori T, Shirai K, Yoshida S, Furuta N, Takemura M, Ito H, Ieiri I, Seishima M, Ogura S, Itoh Y. Usefulness of serum cystatin C to determine the dose of vancomycin in critically ill patients. J Pharm Pharmacol. 2010;62:901-907. IF 1.918

17) Imanishi Y, Matsui K, Ishida K, Ito S, Matsuura K, Deguchi T, Itoh Y. Pharmacokinetic properties of once-daily oral formulation of tacrolimus in patients with renal transplantation. Arzneimittel-Forsch. 2011;61:191-196. IF 0.632

18) Ohmori T, Suzuki A, Niwa T, Ushikoshi H, Shirai K, Yoshida S, Ogura S, Itoh Y. Simultaneous determination of eight β-lactam antibiotics in human serum by liquid chromatography-tandem mass spectrometry. J Chromatogr B. 2011;879:1038-1042. IF 2.971

19) Fujii H, Iihara H, Matsuura K, Takahashi T, Yoshida K, Itoh Y. Evaluation of efficacy and safety of generic levofolinate in patients who received colorectal cancer chemotherapy. Medical Oncol. 2011; 28:488-493. IF 2.210

20) Okayasu S, Matsuura K, Kondoh Y, Tsuruta E, Takashima E, Suzuki M, Nagai T, Yasuda K, Itoh Y. A survey of incidence of diarrhea associated with a single-dose azithromycin formulation in collaboration with hospital pharmacy and community pharmacies. Pharmazie. 2011;66:226-229. IF 0.869

21) Ishihara M, Kitaichi K, Matsuura K, Nakamura H, Tsurumi H, Moriwaki H, Itoh Y. Rikkunshi-to partially reverses cancer chemotherapy-induced decrease in plasma valproic acid concentration in a patient with malignant lymphoma. Chinese Med. 2011;2:58-61. IF 0.983

22) Takeshita M, Banno Y, Nakamura M, Otsuka M, Teramachi H, Tsuchiya T, Itoh Y. The pivotal role of intracellular calcium in oxaliplatin-induced inhibition of neurite outgrowth but not cell death in differentiated PC12 cells. Chem Res Toxicol. 2011;24:1845-1852. IF 4.148

4．研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：飯原大稔；科学研究費補助金奨励研究：デキサメタゾン含有フィルム製剤の開発と抗がん剤投与時の制吐における有用性の研究；平成 21 年度；510 千円

2) 研究代表者：今西義紀；科学研究費補助金奨励研究：テイコプラニンの初期負荷投与設計の完全実施に向けた取り組み；平成 21 年度；600 千円

3) 研究代表者：鈴木昭夫；科学研究費補助金奨励研究：救急領域におけるシスタチン C を腎機能マーカーとした抗菌薬投与設計に関する研究；平成 21 年度；470 千円

4) 研究代表者：丹羽　隆；科学研究費補助金奨励研究：リネゾリドによる副作用の骨髄抑制発現における要因解析と対策に関する研究；平成 21 年度；510 千円

5) 研究代表者：伊藤善規；科学研究費補助金基盤研究(C)：新規デキサメタゾン含有口腔内溶解フィルム製剤の制吐薬としての臨床評価に関する研究；平成 22－24 年度；3,300 千円(2,100：700：500 千円)

6) 研究代表者：石原正志；科学研究費補助金奨励研究：頭頸部癌の放射線化学療法による口内炎に対するポラプレジンクの予防効果に関する研究；平成 22 年度；480 千円

7) 研究代表者：鈴木昭夫；科学研究費補助金奨励研究：救急領域における血清シスタチン C を用いた抗菌薬投与設計への応用に関する研究；平成 22 年度 500 千円

8) 研究代表者：山内恵太；科学研究費補助金奨励研究：非代償性肝硬変患者におけるシスタチン C を用いた抗菌薬投与設計の確立；平成 22 年度；540 千円

9) 研究代表者：西垣美奈子；科学研究費奨励研究：抗がん剤による味覚障害に対する補中益気湯とポラプレジンクの比較研究；平成 23 年度；400 千円

10) 研究代表者：岡安伸二；科学研究費奨励研究：メトホルミン塩酸塩による下痢発現を回避するための薬剤師の積極的介入の評価；平成 23 年度；400 千円

11） 研究代表者：飯原大稔；科学研究費奨励研究：肺癌患者における $5HT_3$ 受容体拮抗薬の経口剤および点滴剤の有効性と安全性の検討；平成 23 年度；500 千円

2）受託研究

1） 伊藤善規：薬剤含有フィルム製剤の開発に関する研究；平成 21 年度；800 千円：ツキオカ(株)
2） 伊藤善規：薬剤含有フィルム製剤の開発に関する研究；平成 22 年度；800 千円：ツキオカ(株)
3） 伊藤善規：薬剤含有フィルム製剤の開発に関する研究；平成 23 年度；800 千円：ツキオカ(株)

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

伊藤善規：

1） 日本薬理学会評議員(～現在)
2） 日本医療薬学会評議員(～現在)
3） 日本病院薬剤師会代議員(～平成 21 年)
4） 日本病院薬剤師会理事(平成 21 年～現在)
5） 日本薬学会東海支部会幹事(～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

伊藤善規：

1） 日本病院薬剤師会雑誌地域編集委員(～平成 22 年)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

伊藤善規：

1） 第 25 回東海医療薬学シンポジウム(平成 21 年 7 月，名古屋，シンポジウム「安心・安全の薬物治療に向けた新たな業務」座長)
2） 第 19 回日本医療薬学会(平成 21 年 10 月，長崎，ランチョンセミナー「喘息と COPD の病態の違いとそれに基づく治療方法の勘案」座長)
3） 第 42 回東海薬剤師学術大会(平成 21 年 11 月，岐阜，ランチョンセミナー「直接的レニン阻害剤の構造と機能ーアリスキレンへの期待ー」座長)
4） 第 13 回中国病院薬学研究会(平成 22 年 2 月，岡山，特別講演「がん化学療法への薬剤師の取り組みと評価」講演)
5） 日本薬学会第 130 年会(平成 22 年 3 月，岡山，シンポジウム「専門薬剤師介入による薬剤業務のアウトカム評価」座長)
6） 日本薬学会第 130 年会(平成 22 年 3 月，岡山，シンポジウム「DRUG REPROFILING 研究（エコファーマ）ー既存薬の新しい薬効の発見ー基礎ならびに臨床知見に基づくパクリタキセル過敏症予防薬としてのペミロラストの有用性」シンポジスト)
7） 日本薬学会第 130 年会(平成 22 年 3 月，岡山，シンポジウム「外来がん化学療法へのがん専門薬剤師の関与による診療効率の改善および安全性対策の推進」共同演者)
8） 医療薬学フォーラム 2010(平成 22 年 7 月，広島，シンポジウム「病院薬剤師の業務を臨床研究にするための方策：抗菌薬の適正使用の推進」共同演者)
9） 第 60 回日本病院学会(平成 22 年 7 月，ワークショップ「喘息治療への医・薬・薬・薬学・連携の取り組み」オーガナイザー/座長)
10） 医療薬学フォーラム 2010(平成 22 年 7 月，広島；「病院薬剤師の業務を臨床研究にするための方策：抗菌薬の適正使用の推進」)

11） 9th International Conference of The Asian Clinical Oncology Society(2010.08, Gifu,「The role of Pharmacist for Team Oncology in Japan」共同演者)
12） 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2010 (平成 22 年 11 月，静岡，シンポジウム「救急・集中治療領域における腎機能評価法の確立に向けた取り組み」共同演者)
13） 第 4 回日本薬局学会学術総会(平成 22 年 11 月，岐阜，基調講演「保険薬剤師の新たなるチャレンジ」座長)
14） 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2010 (平成 22 年 11 月，静岡;「救急・集中治療領域における腎機能評価法の確立に向けた取り組み」)
15） 経済産業省平成 22 年度地域新成長産業創出促進委託事業 医療・福祉機器の新産業創出セミナー(平成 22 年 12 月，岐阜 ;「医療現場のニーズ：薬剤師の立場から」)
16） 日本薬学会東海支部特別講演会(平成 23 年 1 月，愛知，シンポジウム「これからの薬剤師業務―救急領域における業務に基づく研究―」)
17） 第 26 回日本環境感染学会総会(平成 23 年 2 月，横浜，シンポジウム「抗菌薬適正使用推進と薬剤師の役割」)
18） 文部科学省 GP「6 年制薬学教育を主軸とする薬系・医系・看護系大学による広域総合教育連携」事業(平成 23 年 2 月，名古屋，特別講演「これからの病院薬剤師の業務」)
19） 第 58 回北海道薬学大会(平成 23 年 5 月，札幌，特別講演「今後の病院薬剤師業務～薬剤業務に基づく研究のすすめ～」)
20） 第 28 回岐阜県精神科病院協会薬剤師会研修会(平成 22 年 5 月，岐阜，特別講演「病院薬剤師の将来～専門性を活かしチーム医療へ貢献～」)
21） 第 27 回東海医療薬学シンポジウム(平成 23 年 6 月，名古屋，パネルディスカッション「薬学生実務実習委員会の取り組み」)
22） 医療薬学フォーラム 2011 クリニカルファーマシーシンポジウム(平成 23 年 7 月，旭川，シンポジウム「病院薬剤師によるドラッグ・リプロファイリング」; シンポジスト「高用量デキサメタゾン含有口腔内速溶解フィルムの開発と臨床応用」)
23） 第73回九州山口薬学大会(平成23年11月，沖縄，基調講演「医薬薬連携の具体例とアウトカム評価」)
24） 岡山県病院薬剤師会北地区研修会(平成 23 年 11 月，津山，特別講演「病院薬剤師の今後の業務展開を考える～専門性を活かした薬剤適正使用の推進～」)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

伊藤善規：

1） 岐阜県病院薬剤師会会長(～現在)
2） 岐阜県薬剤師会副会長(～現在)
3） 岐阜県糖尿病対策推進委員(～現在)
4） 日本病院薬剤師会理事・薬剤業務委員(平成 21 年～現在)
5） 日本麻酔学会周術期管理チームプロジェクト委員(平成 22 年～平成 23 年)

10. 報告書

1） 伊藤善規：薬剤による血管障害の発現機序解明と予防・治療策の確立に関する研究：平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究(C)総括・研究代表者報告書(平成 21 年 5 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

臨床薬剤学分野の教員は教授のみであり，大学院生もいないことから，病院薬剤部職員（技官）が主体となってこれまで研究に取り組んできた。したがって，研究内容は医療現場での薬剤業務に関連する臨床研究や診療科との共同研究が中心となっている。こういった状況の下でも年間平均 7 報のペースで英文原著論文を報告した。特に，最近では院内での研究のみならず，4 県 35 病院での多施設共同研究の研

究計画立案，各施設からのデータ収集，データ解析，投稿論文作成（Clinical J Pain. in press)，学会報告の一切を中心的に展開できたことは意義深いと考える。さらに，日本病院薬剤師会理事に就任し，委員会活動において全国の施設から報告された臨床研究に関する投稿論文を抽出し，その中でがん領域については中心となってまとめ，全国病院薬剤部において今後のがん領域における薬剤業務を展開するための資料となるよう，総説として報告した（日本病院薬剤師会雑誌 2011 年；47 巻：983－1002)。以上のことから，劣悪な環境のもとでも研究面では十分な成果を上げられたと評価する。

現状の問題点及びその対応策

研究スタッフ，特に教員が教授以外にいないことは研究を実施する上で致命的な問題である。教育面では大学院生への教育にとどまり，医学生に対して薬剤学や処方学の教育を行う必要性は感じているものの，それを実現するには教育スタッフの充実を待たねばならない。

今後の展望

今後も臨床研究を主体に研究を推進することを考えている。さらに，岐阜薬科大学との連携を強化するとともに，他の薬科大学との共同研究も推進し，薬剤部－薬科大学－診療科の共同臨床研究実施体制を構築し，研究の推進を図る予定である。

（4）医療経済学分野

1．研究の概要

行動科学及び経済学等社会科学の手法に基づく医療評価研究や患者行動，医師・患者関係に関する研究をおこなっている。

1)患者の行動医学研究

がん患者の治療や薬剤に対する患者の意思決定やそれに及ぼす要因の分析を行っている。

2)医療における生産性及び効率性に関する研究

医療における生産性指標及び効率性指標の算出を行い，その影響要因を明らかにするとともに，医療のパフォーマンス指標への応用を研究している。特に，急性期病院に求められる在院日数の短縮化と医療における質を反映できるパフォーマンス指標の開発を目標としている。

3)HPV ワクチン，遺伝子診断の需要分析研究

今後普及が見込まれる HPV ワクチン，各種遺伝子診断について，その需要に影響する要因について研究している。

2．名簿

教授(併任)：永田知里　　Chisato Nagata

准教授：　高塚直能　　Naoyoshi Takatsuka (在籍：平成 23 年 3 月 31 日まで)

3．研究成果の発表

著書（和文）

1） 高塚直能．第 7 章　日本の医療・福祉制度：山本眞由美編．大学生の健康ナビ　キャンパスライフの健康管理，岐阜：岐阜新聞社；2009 年：186－190.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1） 高塚直能．血清脂質および動脈硬化性疾患に対する大豆の影響，オレオサイエンス　2009 年；9 巻：293－296.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

なし

原著（欧文）

1） Oba S, Takatsuka N, Nagata C, Nagao Y, Yamamoto S, Shibuya C, Kashiki Y, Shimizu H. Causal attributions to epidemiological risk factors and their associations to later psychological adjustment among Japanese breast cancer patients. Support Care Cancer. 2009;17:3-9. IF 2.058

2） Nakamura K, Nagata C, Fujii K, Kawachi T, Takatsuka N, Oba S, Shimizu H. Cigarette smoking and the adult onset of bronchial asthma in Japanese men and women. Ann Allergy Asthma Immunol. 2009;102:288-293. IF 2.801

3） Oba S, Nagata C, Nakamura K, Fujii K, Kawachi T, Takatsuka N, Shimizu H. Diet based on the Japanese Food Guide Spinning Top and subsequent mortality among men and women in a general Japanese population. J Am Diet Assoc. 2009;109:1540-1547. IF 3.244

4） Nakamura K, Nagata C, Wada K, Fujii K, Kawachi T, Takatsuka N, Shimizu H. Association of farming with the development of cedar pollinosis in Japanese adults. Ann Epidemiol. 2010;20:804-810. IF 3.238

5） Matsumoto K, Oki A, Furuta R, Maeda H, Yasugi T, Takatsuka N, Hirai Y, Mitsuhashi A, Fujii T, Iwasaka T, Yaegashi N, Watanabe Y, Nagai Y, Kitagawa T, Yoshikawa H. Japan HPV and Cervical Cancer (JHACC) Study Group. Tobacco smoking and regression of low-grade cervical abnormalities. Cancer Sci. 2010;101:2065-2073. IF 3.846

6） Oba S, Nagata C, Nakamura K, Fujii K, Kawachi T, Takatsuka N, Shimizu H. Dietary glycemic index, glycemic load, and intake of carbohydrate and rice in relation to risk of mortality from stroke and its subtypes in Japanese men and women. Metabolism. 2010;59:1574-1582. IF 2.538

7） Oba S, Nagata C, Nakamura K, Fujii K, Kawachi T, Takatsuka N, Shimizu H. Consumption of coffee, green tea, oolong tea, black tea, chocolate snacks and the caffeine content in relation to risk of diabetes in Japanese men and women. Br J Nutr. 2010;103:453-459. IF 3.072

8） Fujii K, Nagata C, Nakamura K, Kawachi T, Takatsuka N, Oba S, Shimizu H. Prevalence of tinnitus in community-dwelling Japanese adults. J Epidemiol. 2011;21:299-304. IF 2.111

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1） 研究代表者：今井博久，研究分担者：高塚直能；厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業：特定保健指導プログラムの成果を最大化及び最適化する保健指導介入方法に関する研究；平成 20－22 年度；27,700 千円(15,000：12,700：0 千円)

2） 研究代表者：高塚直能，研究分担者：長瀬　清；科学研究費補助金基盤研究(C)：乳がん手術待機期間からみた医療資源適正配分に関する研究；平成 22－24 年度；3,500 千円(1,500：500：1,500 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

永田知里：

疫学・予防医学分野参照

高塚直能：

1） 東海公衆衛生学会理事(平成 21 年 4 月～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

永田知里：

疫学・予防医学分野参照

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

高塚直能：

1） 岐阜県保険者協議会(医療費分析相談)(～現在)

2） 岐阜県国保連合会生活習慣病予防対策検討委員会アドバイザー(～現在)

3） 岐阜県後期高齢者医療広域連合運営懇話会委員(～現在)

4） 厚生労働省特定健診・特定保健指導に関する検討会　治療中の者に対する保健指導の効果に関する WG 委員(～現在)

10. 報告書

1） 福田吉治，中尾裕之，八幡裕一郎，高塚直能：特定保健指導プログラムの成果を最大化及び最適化する保健指導介入方法に関する研究：平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金　総括・分担研究報告書(今井班)：18－27(平成 21 年 3 月)

2） 高塚直能：特定保健指導プログラムの成果を最大化及び最適化する保健指導介入方法に関する研究：平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金　総括・分担研究報告書(今井班)：18－27(平成 22 年 3 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

特殊性のある研究を続けているが論文数が少ない。

現状の問題点及びその対応策

論文化を迅速に進める。共同研究の形も模索する。

今後の展望

小規模であるが応用性の高い研究や方法論に関わる研究などを行い，独自色ある成果を求めていく。薬剤疫学の分野も包括する。

（5）救急・災害医学分野

1. 研究の概要

外的侵襲制御について基礎研究，臨床研究を通じて，国際的に通用する自立した研究者を育成することを目的とする。具体的なテーマとしては，外傷，ショック（含む敗血症），高気圧酸素治療，救急搬送，救急医療情報などについての臨床専門分野における診断,治療に関するものや，救急医学領域における外傷，敗血症などの外的侵襲の実験モデルを作成して基礎的な知見を得る。

2. 名簿

教授：	小倉真治	Shinji Ogura
准教授：	豊田　泉	Izumi Toyoda
講師：	白井邦博	Kunihiro Shirai
講師：	牛越博昭	Hiroaki Ushikoshi (循環病態学)
助教：	金田英己	Hidemi Kanada
助教：	吉田省造	Shouzo Yoshida
助教：	熊田恵介	Keisuke Kumada
助教：	中野通代	Michiyo Nakano
助教：	吉田隆浩	Takahiro Yoshida
助教：	川井　豪	Go Kawai (整形外科学)
助教：	土井智章	Tomoaki Doi
助教：	名知　祥	Shou Nachi (高度先進外科学)
助教：	森下健太郎	Kentarou Morishita (循環病態学)
助教：	中島靖浩	Yasuhiro Nakajima
助教：	谷崎隆太郎	Ryutaro Tanizaki
医員：	井原　頌	Shou Ihara (高度先進外科学)
医員：	大野智彦	Tomohiko Oono (消化器病態学)
医員：	山口良大	Yoshihiro Yamaguchi (整形外科学)
医員：	山田法顕	Noriaki Yamada
医員：	田中香織	Kaori Tanaka (腫瘍病理学)
医員：	南　公人	Kimito Minami (麻酔科・疼痛治療学)
医員：	船津奈保子	Nahoko Hunatu (脳神経外科学)
医員：	今井　一	Hajime Imai (循環病態学)
医員：	三宅喬人	Takahito Miyake
医員：	東賢　志	Kenshi Azuma (循環病態学)
医員：	田中義人	Yoshihito Tanaka
医員：	橋本孝治	Kouji Hashimoto (整形外科学)

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 小倉真治，吉田隆浩，加藤久晶，山田法顕，中野志保，竹田　啓，名知　祥．第 3 章　大学生活のけがや病気　第 5 節　救急時の対応について：大学生の健康ナビ　キャンパスライフの健康管理，岐阜：岐阜新聞社；2009 年：73－83.

2） 土井智章，小倉真治.【救命救急スタッフにすぐに役立つ検査データの取り方読み方使い方】症状に対する検査の進め方 ショック：EMERGENCY CARE 2009 年夏季増刊，大阪：メディカ出版；2009 年：188－194.

3） 土井智章，吉田省造，小倉真治．Ⅱショック治療の実際　Q12. 血管作動薬には，何を選ぶべきか？：ショック管理 Q&A－迅速で，的確な対応のために－，東京：総合医学社；2009 年：892－897.

4） 高田忠敬，天野穂高，荒田慎寿，伊佐地秀司，伊藤鉄英，片岡慶正，角谷眞澄，蒲田敏文，北村伸哉，木村康利，桐山勢生，四方　哲，白井邦博，関本美穂，武田和憲，竹山宜典，廣田衛久，廣田昌彦，平田公一，服部貴行，真弓俊彦，山内栄五郎，横田正道，吉田雅博，和田慶太．急性膵炎診療ガイドライン 2010[第 3 版]，東京：金原出版；2009 年：1－160.

5） 土井智章，小倉真治．Ⅴ.各都道府県の取り組み状況 7 岐阜 DMAT 1. 医療チームの現場から：プレホスピタル Mook シリーズ 9 DMAT，大阪：永井書店；2009 年：243－247.

6） 熊田恵介，吉田隆浩，豊田　泉，小倉真治，村上啓雄，福田充宏．1 章 救急医療機関の現状と問題と今後のあり方　5) 地域医療の現状と大学病院を中心とした支援のあり方：あたらしい救急医療体制の構築　救急医療体制改善のための提言，東京：へるす出版；2009 年：39－47.

7) 小倉真治. 救急医療支援情報流通システム(GEMITS)：クリニシアン 56　12, 東京：エーザイ株式会社；2009 年：109－116.
8) 豊田　泉. 脳卒中の救急搬送体制：臨床研修プラクティス, 東京：文光堂；2009 年：62－63.
9) 牛越博昭. 特集　心臓病の臨床　3－5 疾患のマネージメント　弁膜症：レジデント, 東京：医学出版；2009 年：121－135.
10) 吉田省造, 権田正樹. 呼吸療法認定士：たしかめドリル, 名古屋：日総研出版；2009 年：1－196.
11) 大畑雅典, 牛越博昭, 仁科拓也, 中嶋秀人. メディチーナ―アレルギー疾患を疑ったらこう診る！－目で見るトレーニング, 東京：医学書院；2010 年：340－345.
12) 小倉真治. 一般医・研修医のための災害医療トレーニング, 東京：へるす出版；2010 年：1－48.
13) 小倉真治. 素描集―小倉真治集―196 集：岐阜, 岐阜新聞；2010 年：15－24.
14) 土井智章. 第 2 章集中治療法―急性血液浄化：図説臨床看護医学デジタル版－21 集中治療, 東京：エディターシップ；2010 年：1－7.
15) 吉田省造, 権田正樹. 呼吸療法認定士たしかめドリル, 名古屋：日総研出版；2010 年：1－296.
16) 土井智章, 小倉真治. 多数傷病者対応：大友康裕編. プレホスピタル MOOK シリーズ 4－多数傷病者対応, 大阪：永井書店；2010 年：237－238.
17) 吉田省造. 呼吸器＆循環器ケア－SIRS と密接にかかわる DIS の仕組みと治療・患者ケアの実際, 名古屋：日総研出版；2010 年：71－78.
18) 豊田　泉. 臨床研修プラクティス―脳卒中診療のミニマムエッセンス脳卒中治療ガイドライン 2009 準拠－脳卒中の救急搬送体制, 東京：文光堂；2010 年：62－63.
19) 牛越博昭. 胸痛・胸部不快感：森田浩之編. いきなり名医！見わけが肝心, 不定愁訴　jmedmook09, 東京：日本医事新報社；2010 年：26－30.
20) 吉田省造, 小倉真治. 救急・集中医療―Q67 ALI／ARDS の予後予測は？, 東京：総合医学社；2010 年：1353－1359.
21) 小倉真治. 新たな取り組み GEMITS の概要と今後：救急医療ジャーナル, 東京：2011 年：32－33.
22) 土井智章. 森　博美. 既吸収毒物の除去：山口　均編. 急性中毒ハンドファイル, 東京：2011 年：69－76.
23) 加藤久晶, 森　博美. 未吸収薬毒物の除去：山口　均編. 急性中毒ハンドファイル, 東京：2011 年：63－68.
24) 豊田　泉. 県ドクターヘリ運航スタートかつてない機動力で地域医療に貢献!：名古屋：日総研出版；2011 年：63－65.
25) 小倉真治. ドクターヘリ, 高い機動力―東日本大震災ぎふ支援の記録：岐阜：岐阜新聞社；2011 年：203－205.
26) 橋本孝治. 別名「空飛ぶ診療所」としての役目を発揮－東日本大震災ぎふ支援の記録：岐阜：岐阜新聞社；2011 年：2－30.
27) 小倉真治, 松本　尚, 小倉真治, 勝見　敦, 高山隼人, 谷川巧一, 中野　実, 奈良　理. 消防防災ヘリコプターの救急ヘリとしての能力評価に関する検討：東京：日本救急医学会；2011 年：758－764.
28) 谷崎隆太郎, 山田法顕, 土井智章, 吉田省造, 白井邦博, 豊田　泉, 小倉真治. 岐阜県で経験したヒメハブ咬傷の 1 例：東京：へるす出版；2011 年：241－242.
29) 小倉真治. 医師と患者との最適化を目指して：東京：東京法令出版株式会社；2011 年：12－13.
30) 豊田　泉. 岐阜県におけるドクターヘリの運用の現状と課題：岐阜：社団法人岐阜県病院協会；2011 年：3－4.
31) 白井邦博. 蛋白分解酵素阻害薬に関する pro/con：東京：MEDISI；2011 年：645－651.
32) 小倉真治. 救急医療の全体最適化を担うシステム GEMITS：東京：株式会社プラネット；2011 年：24－30.
33) 小倉真治, 豊田　泉. 先進システムを搭載した岐阜県ドクターヘリの全国初の取り組み：東京：NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク；2011 年：9－12.
34) 小倉真治. 医療改革で社会を元気に：東京：日経 BP 社；2011 年：50－51.
35) 吉田省造, 小倉真治. 敗血症：東京：医学書院；2011 年：557－558.
36) 小倉真治. IT を活用して, 救急搬送の時間を短縮：東京：医学通信社；2011 年：34－35.
37) 小倉真治, 田口博一, 平出　敦. 蘇生教育：東京：へるす出版；2011 年：1657－1660.
38) 名知　祥. JRC 蘇生ガイドライン 2010：東京：へるす出版；2011 年：92－94.
39) 豊田　泉. JRC 蘇生ガイドライン 2010：東京：へるす出版；2011 年：297－298.

著書（欧文）

1) Yasuda S, Kobayashi H, Iwasa M, Kawamura I, Sumi S, Narentuoya B, Yamaki T, Ushikoshi H, Nishigaki K, Nagashima K, Takemura G, Fujiwara T, Fujiwara H, Minatoguchi S. Antidiabetic drug pioglitazone protects the heart via activation of PPAR-gamma receptors, PI3-kinase, Akt, and eNOS pathway in a rabbit model of myocardial infarction In: 296th ed. America : HighWire Press; 2009:1558-1565.

総説（和文）

1) 土井智章, 小澤　修, 加藤久晶, 足立政治, 小倉真治. 血小板に対するアンチトロビンⅢの抗炎症作用の分子機序の解説：血小板に対する直接作用の可能性について, Coagulation＆Inflammation　2010 年；4 巻：19－21.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 小倉真治. 救急医療と IT, 救急・集中治療医学レビュー2010, 2010 年；1－30.
2） 竹田　啓, 土井智章, 加藤久晶, 長屋聡一郎, 白井邦博, 豊田　泉, 小倉真治. 頸部仮性動脈瘤破裂により気道誌閉塞を来たした von Recklinghausen 病の 1 症例, 日本救急医学会雑誌 2010 年；21 巻：84－90.
3） 山田法顕, 中野志保, 豊田　泉, 吉村紳一, 岩間　亨, 古井辰郎, 小倉真治. 妊娠 39 週に脳梗塞を発症し血栓溶解療法を行った 1 例, 日本救急医学会雑誌 2010 年；21 巻：191－197 .
4） 小倉真治, 熊田恵介, 土井智章, 豊田　泉, 吉田隆浩, 加藤久晶, 山田法顕. 救急医学, IT(intelligence technology)を活用したプレホスピタル情報のネットワーク, 2010 年；34 巻：503－506.
5） 白井邦博, 豊田　泉, 村上哲雄, 吉田省造, 加藤久晶, 土井智章, 中野志保, 竹田　哲, 山田法顕, 小倉真治. 外傷患者における ICT の介入前後での抗菌薬投与の比較検討, 日本臨床救急医学会雑誌 2010 年；13 巻：334－340.
6） 白井邦博, 小倉真治. 腹部救急の指導をどのように行うか－救命救急センター長の立場から腹部救急診療の問題点と外科系救急医の育成, 日本腹部救急医学会雑誌 2010 年；30 巻：539－544.
7） 熊田恵介, 小倉真治. 救急医療と IT, 救急・集中治療医学レビュー2011　2011 年；24－29.
8） 山田実貴人, 森　洋子, 熊田恵介, 八田善明, 豊田　泉, 横山和俊, 小倉真治, 山田實紘. MEDICA™ カードを利用した患者情報収集と病院前救護, 日本病院会雑誌　2011 年：58 巻：63－67.
9） 名知　祥, 山田法顕, 土井智章, 加藤久晶, 吉田隆浩, 熊田恵介, 吉田省造, 白井邦博, 豊田　泉, 小倉真治. 岐阜県におけるメディカルコントロール体制下の事後検証医の現状と対策, 日本臨床救急医学会雑誌 2011 年；14 巻：38－44.
10） 小倉真治. 救急医療の全体最適化を目指して, 日本病院会雑誌　2011 年；58 巻：24－48.
11） 土井智章, 加藤久晶, 小倉真治. 外傷に伴う出血性ショックへの岐阜大学医学部附属病院の取り組み, へるす出版　2011 年；35 巻：452－455.
12） 熊田恵介, 豊田　泉, 小倉真治, 有賀　徹, 福田充宏. 救急告示医療機関数の推移と救急隊現場滞在時間の推移からみた今後の救急医療体制のあり方に対する一考案, 日本臨床救急医学会雑　2011 年；14 巻：431－436.
13） 森村尚登, 奥寺　敬, 山本時彦, 遠藤重厚, 小倉真治, 高橋正彦, 島崎修次. 救急医療の構築, 日本病院会雑誌　2011 年；58 巻：16－63.
14） 熊田恵介, 豊田　泉, 小倉真治, 小濱啓次, 福田充宏. 大学病院の救急医療体制における役割 現状分析と今後のあり方, 日本医事新報　2011 年；26－31.
15） 白井邦博, 加藤久晶, 土井智章, 谷崎隆太郎, 村上哲雄, 小倉真治. 熱傷患者における感染症の原因と特徴についての検討,　日本熱傷学会　2011 年；22－30.
16） 白井邦博. 消化器疾患(9)重症急性膵炎, へるす出版　2011 年；1361－1365.
17） 谷崎隆太郎, 加藤久晶, 土井智章, 白井邦博, 豊田　泉, 小倉真治. 鼓膜穿孔を合併した蟻酸による化学熱傷の 1 例, 日本熱傷学会機関誌　2011 年；37 巻：31－37.

原著（欧文）
1） Kato M, Ikegame Y, Toyoda I, Ogura S, Kitajima H, Yoshimura S, Iwama T. Hemispheric laminar necrosis as a complication of traumatic carotid-cavernous sinus fistula. Neurologia medoco-chirugica. 2009;49:26-29. IF 0.677
2） Enomoto Y, Adachi S, Matsushima-Nishiwaki R, Niwa M, Tokuda H, Akamatsu S, Doi T, Kato H, Yoshimura S, Ogura S, Iwama T, Kozawa O. αB-crystallin extracellularly suppresses ADP-induced granule secretion from human platelets. FEBS Lett. 2009;583:2464-2468. IF 3.601
3） Doi T, Adachi S, Takai S, Matushima-Nishiwaki R, Kato H, Enomoto Y, Minamitani C, Otska T, Tokuda H, Akamatsu S, Iwama T, Kozawa O, Ogura S. Antithrombin Ⅲsuppresses ADP-induced platelet granulw secretion:Inhibition of HSP27 phosphorylation. Arch Biochem Biophys. 2009;489:62-67. IF 3.022
4） Matsuhashi N, Yawata K, Ogura S. Divided PE and HDF saved a patient with acute pancreatitis caused by hyperlipidemia in the final stage of gestation. Journal of Japanese College of Surgeons. 2009;34:1110-1114.
5） Suzuki A, Imanishi Y, Nakano S, Niwa T, Ohmori T, Shirai K, Yoshida S, Seishima M, Ogura S, Itoh A . Usefulness of serum cystain C to determine the dose of vancomycin in critically ill patients. J Pharmaccol. 2010;62:901-907. IF 1.918
6） Enomoto Y, Adachi S, Matsushima-Nishiwaki R, Doi T, Niwa M, Akamatsu S, Tokuda H, Ogura S, Yoshimura S, Iwama T, Kozawa O. Thromboxane A2 promotes soluble CD40 ligand release from human platelets. Atherosclerosis. 2010;209:415-421. IF 4.086
7） Doi T, Adachi S, Matsushima-Nishiwaki R, Kato H, Enomono Y, Natsume H, Kato K, Mizutani J, Otsuka T, Tokuda H, Akamatsu S, Iwama T, Kozawa O, Ogura S. Antithrombin Ⅲ reduces collagen-stimulated granule secretion of PDGE-AB and the release of soluble CD40 ligand from human plates, Int J Mol Med. 2010;26:387-392. IF 1.814
8） Enomoto Y, Adachi S, Doi T, Natsume H, Kato K, Matsushima-Nishiwaki R, Akamatsu S, Tokuda H,

Yoshimura S, Otsuka T, Ogura S, Kozawa O, Iwama T. cAMP regulates ADP-induced HSP27 phosphorylation in human platelets. Int J Mol Med. 2011;27:695-700. IF 1.814

9) Ohmori T, Suzuki A, Niwa T, Ushikoshi H, Shirai K, Yoshida S, Ogura S, Itoh Y. Simultaneous determination of eight β-lactam antibiotics in human serum by liquid chromatography-tandem mass spectrometry. Journal of Chromatography B. 2011;879:1038-1042. IF 2.971

10) Mochizuki K, Suemori S, Udo K, Komori S, Ohkusu K, Yamada N, Ogura S. Intraocular penetration of micafungin in patient with candida albicans endophthalmitis. J Ocul Pharmacology TH. 2011;27:531-533. IF 1.609

11) Doi T, Fujisawa T, Murase K, Okumura Y, Kanoh H, Yoshida S, Ogura S, Seishima M. Generalized pustular psoriasis successfully treated with granulocyte and monocyte adsorption apheresism. Ther Apher Dial. 2011;15:374-378. IF 1.098

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

なし

2）受託研究

1) 研究代表者：小倉真治：平成 21 年度産業技術研究開発「車載 IT を活用した緊急医療体制の構築」；平成 21 年度；200,000 千円：経済産業省
2) 研究代表者：白井邦博：敗血症モニタの開発；平成 21－23 年度；40,480,528 円：財団法人岐阜県研究開発財団
3) 小倉真治：リコモジュリン点滴静注用 12800 特定使用成績調査(産婦に対する調査)；平成 22－24 年度；63 千円；旭化成ファーマ(株)
4) 小倉真治：緊急医療体制の構築に資する車載 IT システムの導入における課題抽出・分析のための調査研究；平成 22－23 年度；3,780,567 円：三菱総合研究所(株)
5) 小倉真治：G-1 の膿疱性乾癬患者を対象とした多施設共同試験；平成 22－23 年度；80,640 円；JIMRO(株)
6) 小倉真治：ジェイスの重症熱傷に対する使用成績調査；平成 22－26 年度；105 千円；ジャパンエンジニアリング(株)
7) 小倉真治：ゾシン静注用 2.25, 4.5 使用成績調査；平成 22－24 年度；105 千円；大正富山医薬品(株)
8) 小倉真治：ラジカット注 30 mg 詳細報告；平成 22－23 年度；42 千円；田辺三菱製薬(株)
9) 小倉真治：ラピアクタ点滴用バイアル 150 ml 使用成績調達；平成 22－23 年度；10.5 千円：塩野義製薬(株)
10) 小倉真治：平成 23 年度「医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出実証事業(緊急医療体制の構築に資する車載 IT システムの導入における課題抽出・分析のための調査事業)」；平成 23－24 年度；3,960,449 円：経済産業省
11) 白井邦博：モノづくり技術と IT を活用した高度医療機器の開発の一部「敗血症モニタの開発」；平成 23－24 年度；7,643,113 円：財団法人岐阜県研究開発財団
12) 小倉真治：感染症に伴い発症した汎発性血管内凝固症候群(DIC)患者を対象とした KW－3357 と血漿由来アンチトロビン製剤の非盲検比較試験；平成 23－25 年度；1,852,200 円：協和発酵キリン(株)

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

小倉真治：

1) ICLS コース企画運営委員会委員長・メディカルコントロール体制検討委員・評議員・編集委員会委員・航空機による救急搬送検討委員会担当理事・航空機による救急搬送検討委員会委員・中部地方会理事・指導医認定委員(～現在)
2) 日本集中治療医学会評議員(～現在)
3) 日本 Shock 学会評議員(～現在)

4） 日本航空医療学会評議員・査読委員(～現在)
5） 日本外傷学会評議員・将来計画委員会委員・専門医認定委員(～現在)
6） 日本救急医学会東海地方会理事(～現在)
7） 日本臨床救急医学会評議員・編集委員会委員・搬送等の業務に関する検討委員会委員・将来計画検討委員・トリアージナース育成検討小委員会委員・会則検討委員・研究倫理委員(～現在)
8） 日本集団災害医学会　秋葉原事件調査特別委員会委員(～現在)

豊田　泉：
1） 日本救急医学会評議員・中部地方会幹事(～現在)
2） 日本脳神経外傷学会編集幹事(～現在)
3） 日本脳神経外科救急医学会幹事(～現在)
4） 日本臨床救急医学会 ACEC 委員会委員(～現在)
5） 日本航空医療学会評議員(～現在)

熊田恵介：
1） 日本臨床救急医学会評議員(～現在)
2） 日本航空医療学会評議員(～現在)

吉田省造：
1） 日本救急医学会関東地方会幹事(～現在)
2） 日本集中医学会東海北陸地方会評議員(～現在)

土井智章：
1） 医真菌学会・侵襲性カンジダ症の診療ガイドライン作成委員会委員(～現在)

2）学会開催

小倉真治：
1） JATEC 岐大コースⅢ(平成 21 年 5 月，岐阜)
2） 第 16 回日本航空医療学会(平成 21 年 11 月，岐阜)
3） 第 5 回病院前救急診療研究会(平成 22 年 12 月，岐阜)

3）学術雑誌

小倉真治：
1） 日本救急医学会；編集委員会委員(～現在)
2） 日本臨床救急医学会；編集委員会委員(～現在)
3） 日本航空医療学会誌；査読委員(～現在)

豊田　泉：
1） 日本航空医療学会査読委員(～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

小倉真治：
1） 岐阜救急・災害医療セミナー　研修医セミナーシリーズ(1)(平成 21 年 4 月，岐阜，特別講演「病院前からの脳卒中治療」座長)
2） 第 6 回岐阜県救急医療研究会総会・学術集会/第 2 回ドクターヘリ研究会(平成 21 年 7 月，岐阜，特別講演「岐阜県の地域医療対策」座長)
3） 第 4 回岐阜救急集中治療セミナー(平成 21 年 7 月，岐阜，特別講演「急性期 DIC 診断基準と ATⅢ―外傷研究部門の研究活動を含めて―」座長)
4） 第 2 回岐阜外傷カンファレンス(平成 21 年 8 月，岐阜，特別講演「重症病態における栄養管理」座長)
5） 第 11 回岐阜市救急症例研究発表会(平成 21 年 9 月，岐阜，特別講演(教育)「救急医療における情報の重要性」演者)
6） 第 5 回岐阜 SFI 研究会(平成 21 年 9 月，岐阜，特別講演「深在性真菌症の診断と治療戦略―各々の有用性をいかに引き出すか―」座長)

7） 9 月内科会(平成 21 年 9 月，岐阜，特別講演「一般医の知っておきたい救急医療」演者)
8） 第 3 回東海救命救急 SBMN 研究会学術講演会(平成 21 年 10 月，名古屋，特別講演「外科侵襲時の病態と Immunonutrition」座長)
9） 第 25 回マルチビューセミナー(平成 21 年 10 月，丸亀，特別講演「IT が支援する新しい救急医療体制」演者)
10） 学術講演会(平成 21 年 10 月，瀬戸，特別講演「災害医療の新しい考え方」演者)
11） 第 16 回日本航空医療学会総会(平成 21 年 11 月，岐阜，座長「特別講演「宇宙環境への挑戦」」座長)
12） 第 15 回日本集団災害医学会総会・学術集会(平成 22 年 2 月，千葉，特別講演「災害時の遠隔通信手段の確保」座長)
13） 第 37 回 日本集中治療医学会(平成 22 年 3 月，広島，シンポジウム「プレホスピタル救急医療・災害医療へのモバイルテレメディシンの活用」座長)
14） 第 60 回日本病院学会(平成 22 年 7 月，岐阜，特別講演「救急医療の問題点の解決に向けた具体的戦略」講師)
15） 第 29 回日本自然災害学会オープンフォーラム(平成 22 年 9 月，岐阜，基調講演「孤立集落と救急・災害医療～救急医療支援情報流通システム(GEMITS)による医療全体の最適化に向けて」演者)
16） 第 38 回日本救急医学会総会・学術集会(平成 22 年 10 月，東京，座長「救急医療体制の全体最適化に向けた情報活用」座長)
17） 第 38 回日本救急医学会総会・学術集会(平成 22 年 10 月，東京，基調講演「救急医療を支援する情報システムの展望」講師)
18） 第 21 回日本急性血液浄化学会学術集会(平成 22 年 10 月，横浜，座長「多臓器不全に対する血液浄化戦略」座長)
19） 岡山救急医療研究会・第 12 回学術集会(平成 22 年 11 月，岡山，特別講演「救急医療全体最適化を目指して」演者)
20） 地域医療福祉情報連携協議会発足記念シンポジウム(平成 23 年 1 月，東京，基調講演「地域医療情報ネットワークの取り組み　地域医療情報連携システム GEMITS」)
21） 市民フォーラム医療崩壊への処方箋(平成 23 年 3 月，岐阜，基調講演「救急医療崩壊を食い止める情報支援」演者)
22） 第 34 回日本体外循環技術医学会東海地方会(平成 23 年 3 月，岐阜，教育講演「救急医療の全体最適化」演者)
23） 第 25 回日本外傷学会(平成 23 年 5 月，大阪，座長「輸血・輸血療法」座長)
24） とやま ICT フォーラム 2011―ICT の利活用とこれからの医療・福祉―(平成 23 年 6 月，富山，基調講演「救急医療の全体最適化」演者)
25） 第 47 回日本交通科学協議会総会・学術講演会(平成 23 年 6 月，東京，特別講演「救急医療の全体最適化」演者)
26） 第 32 回日本アフェレシス学会(平成 23 年 10 月，東京，ワークショップ「サイトカイン除去療法の展開」司会)
27） 第 39 回日本救急医学会総会・学術集会(平成 23 年 10 月，東京，教育セミナー「エンドトキシンを通して学んだこと」司会)
28） 第 14 回日本救急医学会地方会総会・学術集会「プロを育てる！」(平成 23 年 11 月，松本，パネルディスカッション「地方におけるドクターヘリ救命救急システム」座長)
29） 救急災害医療の全体最適化について特別講演(平成 23 年 12 月，仙台，特別講演「救急災害医療の全体最適化について」演者)

豊田　泉：
1） 第 14 回日本脳神経外科救急学会(平成 21 年 1 月，さいたま，シンポジウム「災害医療における脳神経外科救急」座長)
2） 第 4 回東濃西部脳血管障害研究会(平成 21 年 11 月，多治見，特別講演「脳卒中の病院前救護」演者)

牛越博昭：
1） 紀北・紀南医師会特別講演会(平成 21 年 5 月，尾鷲，特別講演「救命センターの医師の立場からみた高血圧治療について」演者)
2） 第 16 回日本航空医療学会総会(平成 21 年 11 月，岐阜，座長「一般演題　臨床「循環器」」座長)
3） 第 2 回岐阜循環器先端治療セミナー(平成 21 年 11 月，岐阜，座長「C 型肝炎・B 型肝炎における最

新の治療戦略―ウイルス学的治療効果・病態予測はここまで進化した―」座長)
4) 第 40 回岐阜心臓病研究会(平成 21 年 11 月, 岐阜, 座長「一般講演」座長)
5) 日本循環器学会 第 138 回東海・第 123 回北陸合同地方会(平成 23 年 11 月, 名古屋,「ECC(心停止・緊急治療など)」座長)

吉田省造：
1) 第 31 回日本呼吸療法医学会学術総会(平成 21 年 7 月, 天童, シンポジウム「(救急の立場から)人工呼吸器離脱困難例に対する陽・陰圧体外式人工呼吸器(RTX)の効果」演者)
2) 東海 RST 協力会第 2 回セミナー(平成 21 年 8 月, 名古屋, シンポジウム「当院の RST 活動と医師(研修医)への呼吸療法教育」演者)

熊田恵介：
1) へき地・離島救急医療研究会　第 13 回学術集会(平成 21 年 10 月, 和歌山, シンポジウム「大学病院を中心とした地域医療支援　救急医療の視点から　岐阜県の場合」演者)

竹田　啓：
1) 第 52 回日本感染症学会・第 57 回日本化学療法学会(平成 21 年 11 月, 名古屋, シンポジウム「感染症学と化学療法学のクロストーク」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

小倉真治：
1) 岐阜県国民保護協議会委員(～現在)
2) 岐阜県メディカルコントロール協議会委員(～現在)
3) 岐阜県広域災害・救急医療情報システム運営委員会委員(～現在)
4) 岐阜市救急業務対策協議会委員(～現在)
5) NPO 法人岐阜救急災害医療研究開発機構常務理事(～現在)
6) 岐阜東洋医学研究会世話人(～現在)
7) 岐阜県地震防災行動計画フォローアップ委員会委員(～現在)
8) 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部企画委員会医療情報化に関するタスクフォース構成員(～現在)
9) 救急・周産期医療情報ネットワ-ク構築実証事業システム開発検討 WG 委員(～現在)
10) 岐阜県消防・医療連携協議会作業部会委員(～現在)
11) 岐阜県消防・医療連携協議会救急搬送に係る広域化最適化専門部会委員(～現在)
12) 岐阜県震災対策検証委員会委員(～現在)
13) 岐阜県震災対策災害医療分科会(～現在)
14) 名古屋市地震対策専門委員(～現在)
15) 地域医療福祉情報連携協議会幹事会委員(～現在)
16) 財団法人岐阜県ジン・アイバンク協会理事(～現在)
17) 社団法人中部航空宇宙技術センター中部地域航空宇宙関連成長産業振興発展対策活動事業「ヘリコプター活用研究会」委員(～現在)
18) 救急医療情報連携地域協議会委員(～現在)
19) 救急医療情報連携地域協議会・救急医療情報連絡専門委員会委員(～現在)
20) 歯科医療安全管理体制推進特別事業医療安全推進委員会委員(～現在)
21) 社会全体で共有するトリアージ体系のあり方検討会構成員(～現在)
22) 日本版 EHR 事業推進委員会委員(～現在)
23) 医学的検証作業班(～現在)
24) 医療情報化に関するタスクフォース構成員(～現在)

豊田　泉：
1) 岐阜市救急業務高度化検討委員会委員(～現在)

2） 岐阜地域メディカルコントロール協議会委員(～現在)
3） NPO 法人岐阜救急災害医療研究開発機構理事(～現在)
4） 岐阜地域メディカルコントロール体制係る検証医師(～現在)

白井邦博：
1） 岐阜県南部エリア「事業戦略会議」委員(～現在)

牛越博昭：
1） 関市小金田中学校 CPR&AED プロジェクト「未来を作ろう子どもの手でプロジェクト」講師(平成 21 年 6 月)

吉田隆浩：
1） 岐阜地域メディカルコントロール体制係る検証医師(～現在)

熊田恵介：
1） 日本救急医学会評議員(～現在)
2） 日本臨床救急医学会評議員(～現在)

名知　祥：
1） 日本救急医学会 ICLS コ･ス企画運営委員会委員(～現在)
2） 岐阜地域メディカルコントロ･ル体制係る検証医師(～現在)
3） 日本臨床救急医学会学校 BLS 教育導入についての普及に関する委員会委員(～現在)

10. 報告書

1） 小倉真治：平成 21 年度産業技術研究開発　車載 IT システムを活用した緊急医療体制の構築事業：経済産業省(平成 22 年 3 月)
2） 小倉真治：平成 22 年度経済産業省委託事業　医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出調査研究事業：経済産業省(平成 22 年 3 月)
3） 小倉真治：平成 22 年度「医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出調査研究事業」緊急医療体制の構築に資する車載 IT システムの導入における課題抽出・分析のための調査研究：経済産業省(平成 22 年 3 月)
4） 小倉真治：平成 23 年度「医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出実証事業」(緊急医療体制の構築に資する車載 IT システムの導入における課題抽出・分析のための実証事業)：経済産業省(平成 23 年 3 月)

11. 報道

1） 小倉真治：救急医療への理解深める　ソロプチ岐阜ー長良　岐阜市で講演会：岐阜新聞(2009 年 7 月 16 日)
2） 小倉真治：救急医療再生を追う　救命救急に IT をフル活用岐阜大病院が担う「革命」：週刊東洋経済, (2009 年 7 月 18 日号)
3） 小倉真治：救急医療の新たな局面　岐阜大など GEMITS 開発へ(救急患者を最適な病院へ迅速に)：Japan Medicine CLINICAL & MANAGEMENT NEWS(2009 年 7 月 29 日)
4） 小倉真治：事故防止へ誘導や警備　警察や消防など：岐阜新聞(2009 年 8 月 18 日)
5） 小倉真治：ITS で救急たらい回しを防ぐ岐阜プロジェクト：WEDGE(2009 年 9 月号)
6） 小倉真治:関市, IC カード導入実験へ高齢者の医療情報登録　電波で居場所発信市内一部で配布　来秋　本格運用目指す：岐阜新聞(2009 年 9 月 12 日)
7） 小倉真治：病院情報システム　救急患者搬送最適に　岐阜大今年度に実証実験：日本経済新聞(2009 年 10 月 7 日)
8） 小倉真治：推進委員会：NHK(2009 年 10 月 13 日)
9） 小倉真治：救急医療の質向上目指す「車載 IT 活用搬送システム構築」事業　岐阜大で推進委初会合たらい回しを解消実用化へ意見交換：岐阜新聞(2009 年 10 月 14 日)
10） 小倉真治：全国運用目指す　岐大救急搬送システム　第 1 回推進委員会：中日新聞(2009 年 10 月 15 日)

11) 小倉真治：救急搬送の強い味方　退院時発行医療情報カード「メディカ」1100 枚突破　美濃加茂・木沢記念病院　外来患者にも配布へ：中日新聞(2009 年 10 月 15 日)
12) 小倉真治：日本航空医療学会総会　岐阜市：岐阜新聞(2009 年 11 月 15 日)
13) 小倉真治：県議会「仕分け，議論不十分」意見書 民主系会派賛成へ　岐阜大医療 IT 化事業予算確保求める：岐阜新聞(2009 年 12 月 17 日)
14) 小倉真治：仕分け「廃止」岐阜の救急 IT 化：朝日新聞(2009 年 12 月 29 日)
15) 小倉真治：報道ステーション：テレビ朝日(2009 年 12 月)
16) 小倉真治：岐阜大の救急医療 IT 化「事業復活で“重責”」：岐阜新聞(2009 年 12 月 29 日)
17) 小倉真治：県　ドクターヘリ導入へ　県内の救急医療充実：岐阜新聞(2009 年 12 月 31 日)
18) 小倉真治：岐阜市長選　立候補予定 3 氏　本社討論会㊦：岐阜新聞(2010 年 1 月 23 日)
19) 小倉真治：救急医療専門家招きセミナー(県ビルメンテナンス協会)：岐阜新聞(2010 年 1 月 25 日)
20) 小倉真治：病歴カードで救命率アップ：中日新聞(2010 年 1 月 31 日)
21) 小倉真治：素描　歩んできた道：岐阜新聞 (2010 年 3 月 2 日)
22) 小倉真治：素描　時間には密度があるのはご存知だろうか？：岐阜新聞(2010 年 3 月 9 日)
23) 小倉真治：素描　おとうちゃんの命の恩人なんや：岐阜新聞(2010 年 3 月 16 日)
24) 小倉真治：岐阜大の車載 IT 活用緊急医療事業：岐阜新聞(2010 年 3 月 16 日)
25) 小倉真治：岐阜大の緊急医療体制整備ドクターヘリも連携：日本経済新聞(2010 年 3 月 16 日)
26) 小倉真治：成果報告で有望アピール：中日新聞(2010 年 3 月 16 日)
27) 小倉真治：救急搬送 5～10 分短縮　新医療システム開発成果：読売新聞(2010 年 3 月 16 日)
28) 小倉真治：岐阜ウイークと関市実証実験　メディカ：名古屋テレビ(2010 年 3 月 16 日)
29) 小倉真治：岐阜ウイークと関市実証実験メディカ：中京テレビ(2010 年 3 月 16 日)
30) 小倉真治：岐阜ウイーク：NHK(2010 年 3 月 16 日)
31) 小倉真治：救急搬送先瞬時に探索：東奥日報(2010 年 3 月 17 日)
32) 小倉真治：ネットで救急搬送サポート：千葉日報(2010 年 3 月 17 日)
33) 小倉真治：IC カードで患者情報，居場所把握市民対象に実証実験関市と岐阜搬送時間を短縮：岐阜新聞(2010 年 3 月 17 日)
34) 小倉真治：患者の位置や情報確認　メディカカード実験：毎日新聞(2010 年 3 月 17 日)
35) 小倉真治：患者情報　受信できた！メディカハイブリッドカード：中日新聞(2010 年 3 月 17 日)
36) 小倉真治：車載 IT で救急隊と病院運ぶ　システム開発進行中：朝日新聞(2010 年 3 月 17 日)
37) 小倉真治：IC カードで救急搬送支援岐阜大がシステム開発：中国新聞(2010 年 3 月 18 日)
38) 小倉真治：素描　ラグビーというスポーツ：岐阜新聞 (2010 年 3 月 23 日)
39) 小倉真治：素描　ノスタルジア：岐阜新聞(2010 年 3 月 30 日)
40) 小倉真治：素描　桜：岐阜新聞(2010 年 4 月 6 日)
41) 小倉真治：素描　たまにはいい絵を：岐阜新聞 (2010 年 4 月 13 日)
42) 小倉真治：素描　サンディエゴ：岐阜新聞 (2010 年 4 月 20 日)
43) 小倉真治：岐阜大学の真価：朝日新聞(2010 年 4 月 26 日)
44) 小倉真治：素描　生きるということ：岐阜新聞 (2010 年 4 月 27 日)
45) 小倉真治：患者搬送に IT 駆使：中日新聞(2010 年 5 月 30 日)
46) 小倉真治：患者搬送に IT 駆使　岐阜で講演会　救急医療モデル説明：中日新聞(2010 年 5 月 30 日)
47) 小倉真治：救急医療の現場から-GEMITS について-：岐阜県保険医新聞(2010 年 7 月 10 日)
48) 小倉真治：災害時の態勢づくり急げ：中日新聞(2010 年 9 月 16 日)
49) 小倉真治：中山間地の防災考える：岐阜新聞(2010 年 9 月 16 日)
50) 小倉真治：Up in the Clouds：株式会社　日本航空(2010 年 10 月 1 日)
51) 小倉真治：たらい回し解消へ搬送先検索システム開発　病歴カードを併用し救命率引き上げ：日本経済新聞社　産業地域研究所(2010 年 10 月 4 日)
52) 小倉真治：救急搬送　全県的に調整：読売新聞(2010 年 11 月 5 日)
53) 小倉真治：ドクターヘリ広域連携カギ　県境越え出動　実績：朝日新聞(2010 年 11 月 27 日)
54) 小倉真治：血圧，脈拍ヘリから送信：中日新聞(2011 年 1 月 1 日)
55) 小倉真治：電子医療健康情報を本人に渡す：経済産業新報(2011 年 1 月 5 日)
56) 小倉真治：患者情報「最短で」実証：中日新聞(2011 年 2 月 2 日)
57) 小倉真治：救命率向上に期待：読売新聞(2011 年 2 月 2 日)
58) 小倉真治：岐阜大学医学部救急医療システム構築：毎日新聞(2011 年 2 月 2 日)
59) 小倉真治：救命活動に強い味方：中日新聞(2011 年 2 月 9 日)

60） 小倉真治：県ドクターヘリ運航：岐阜新聞(2011 年 2 月 9 日)
61） 小倉真治：日本の医療を創生する鍵に：日本経済新聞(2011 年 2 月 21 日)
62） 小倉真治：医療資源の活用法専門家が意見交換：中日新聞(2011 年 3 月 21 日)
63） 小倉真治：ドクターヘリ運航管理システム研究開発：航空プログラムニュース(2011 年 4 月 1 日)
64） 小倉真治：救急医療に向けた情報流通の仕組みを全国区に，GEMITS の拡大に向けたアライアンスが発足：TechOn デジタルヘルス on! (2011 年 5 月 26 日)
65） 小倉真治：岐阜の病院命救う最後のとりで：中日新聞(2011 年 6 月 19 日)
66） 小倉真治：東海総合通信局，救急医療に情報技術小倉岐大教授を表彰：中日新聞(2011 年 6 月 24 日)
67） 小倉真治：小倉教授(岐阜大学大学院)に表彰状：岐阜新聞(2011 年 6 月 24 日)
68） 小倉真治：救急医療の現場が開発した「GEMITS」ICT を活用し，短時間での決断を支援：日経エレクトロニクス (2011 年 6 月 27 日)
69） 小倉真治：1 分で知る豆医学食中毒 3 家族不調なら疑う：朝日新聞(2011 年 6 月 28 日)
70） 小倉真治：救急医療 IT 活用進化：日本経済新聞(2011 年 6 月 30 日)
71） 小倉真治：物言えぬ患者の代理人となる医療情報カード「MEDICA」：TechTarget ジャパン医療 IT(2011 年 7 月 29 日)
72） 小倉真治：災害救急医療体制を最適化する取り組み：TechTarget ジャパン医療 IT(2011 年 8 月 1 日)
73） 小倉真治：救急医療を効率化する IT 活用プロジェクト「GEMITS」：TechTarget ジャパン医療 IT(2011 年 8 月 3 日)
74） 小倉真治：救急医療情報連携地域協議会が発足：岐阜新聞(2011 年 8 月 18 日)
75） 小倉真治：救急医療情報流通システム実用化へ協議会設立：中日新聞(2011 年 8 月 18 日)
76） 豊田　泉：ドクターヘリにズームイン！：ぷらざ(2011 年 9 月 1 日)
77） 小倉真治：ドクターヘリ協賛 100 万円：岐阜新聞(2011 年 10 月 6 日)
78） 小倉真治：救急搬送先県全域で調整：岐阜新聞(2011 年 10 月 19 日)
79） 小倉真治：最適な病院へ患者搬送：中日新聞(2011 年 10 月 19 日)
80） 小倉真治：迅速な搬送，治療　県がシステム構築：読売新聞(2011 年 10 月 19 日)
81） 小倉真治：防災強化へ討論：岐阜新聞(2011 年 10 月 19 日)
82） 小倉真治：岐阜県が中心の救急医療圏の中核専従医と最先端設備で「英才教育」：メディカルプリンシプル社(2011 年 10 月 20 日)
83） 小倉真治：いびがわマラソンランナー急病に即対応：中日新聞(2011 年 11 月 13 日)
84） 小倉真治：復興における医療 IT の役割と将来：朝日新聞(2011 年 11 月 23 日)
85） 小倉真治：トップインタビュー：岐阜放送(2011 月 11 月 29 日)
86） 小倉真治：ドクターヘリ,エンジンスタート：岐阜県立下呂温泉病院(2011 年 12 月 1 日)
87） 小倉真治：JAXA 航空 PG シンポジウム開催 D－NET は防災ヘリによる実証運航へ：酣燈社(2011 年 12 月 1 日)

12. 自己評価

評価

前述の目的に沿った研究を，それぞれの分野において少しずつではあるが，結果は出している。

現状の問題点及びその対応策

臨床業務が多忙であり，研究のための時間を取りづらいのが現状である。今後は臨床面をおろそかにしない範囲で，スタッフを増加して研究を展開したい。

今後の展望

前記のような現状であるが，徐々に教育スタッフが増加しており今後はさらに基礎講座とコラボレートして研究を促進したい。

（6）法医学分野

1. 研究の概要

これまでと同様。法医病理学的な研究としては，従来は死後の角膜混濁のため，眼球を剔出しなければ観察できなかった眼内所見を眼科手術的に開発された先端径が 0.9 mm の内視鏡を用いて解剖時に観察し，眼底出血等の発生と死因や受けた損傷との関係，その意義等について検討し，眼底出血は頭蓋内出血や頸部圧迫による窒息死例等に高頻度に認められるのに対し，うっ血乳頭は頭蓋内出血死例では認められるが，頸部圧迫による窒息死例では認められないことを明らかにし，また，溺死例においても高頻度に眼底出血が認められることを新知見として報告することができた。また，突然死の原因としての冠動脈奇形の意義や致命的不整脈における心臓の組織学的変化について等の研究を行った。DNA 多型に関する研究では，ミトコンドリア DNA 高変異領域の塩基配列解析ならびに STR (short tandem repeat) 多型の出現頻度や多型構造の解析を行い，DNA 鑑定において必要となる，岐阜県在住の日本人集団を対象としたデータベースを構築することができた。また，ミトコンドリア DNA HVIII 領域に存在する length heteroplasmy の構造を解析し，その法医学的応用について研究したほか，X染色体上の STR 座位の日本人集団における高度な構造多型を明らかにし，その人類遺伝学的解析も行った。

2. 名簿

教授：　武内康雄　　Yasuo Bunai
助教：　永井　淳　　Atsushi Nagai

3. 研究成果の発表

著書（和文）
なし

著書（欧文）
なし

総説（和文）
1） 永井　淳. 法医学における検査の役割－DNA 型判定の基礎から死後画像診断まで－, 医用画像情報学会雑誌　2011 年；66－71.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 武内康雄, 辻中正壮, 赤座香予子, 永井　淳. 眼科用内視鏡を用いての法医剖検例における眼底所見の観察とその意義について, 法医病理　2009 年；15 巻：55－60.
2） 永井　淳, 武内康雄. X-STR 3 座位の塩基配列解析. DNA 多型　2009 年；17 巻：161－164.
3） 永井　淳, 武内康雄, 原　正昭, 木戸　啓. アジア人 3 集団における DXS6789 座位の構造多型. DNA 多型 2010 年；18 巻：191－193.
4） 永井　淳, 原　正昭, 木戸　啓, 武内康雄.　DXS10135 および DXS10146 の構造多型,　DNA 多型　2011 年；19 巻：155－158.

原著（欧文）
1） Nagai A, Hara M, Kido A, Takada A, Saito K, Bunai Y. Sequence polymorphisms at the DXS6789, DXS8377 and DXS101 loci in three Asian populations. Forensic Sci Int:Gene. Supplement Series 2, 2009;2:49-50.
2） Hayashi T, Ago K, Ago M, Yamanouchi H, Bunai Y, Ogata M. The infiltration of 'primed' neutrophils into multiple organs due to physical abuse to the elderly: An immunohistochemical study. Forensic Sci Int. 2010;202:17-25. IF 1.821
3） Chen H, Zhou X, Shoumura S, Emura S, Bunai Y. Age-and gender-dependent changes in three-dimensional microstructure of cortical and trabecular bone at the human femoral neck. Osteoporos Int. 2010;21:627-636. IF 4.859
4） Hayashi T, Bunai Y, Ago K, Ago M, Ogata M. Thymus and adrenal glands in elder abuse. Am J Forensic Med Pathol. 2011;32:368-371. IF 0.646
5） Nagai A, Bunai Y. Insertion/deletion polymorphisms at the X-STR DXS10146 and DXS10147 flanking regions. Forensic Sci Int: Gene. Supplement Series 3, 2011;129-130.
6） Nagai A, Bunai Y. Structural polymorphisms at the X-chromosomal short tandem repeat loci DXS10134, DXS10135, DXS10146 and DXS10148. Forensic Sci Int: Gene 3, 2011;343-344.

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

なし

2）受託研究

1） 武内康雄：薬毒物検査等受託事業費；平成 21－23 年度；20,029 千円(6,100：8,229：5,700(以上)千円)：岐阜県警察本部

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

武内康雄：

1） 日本法医学会評議員(～現在)
2） 法医病理研究会運営委員(～平成 22 年 3 月)
3） 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会評議員(～現在)
4） 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会症例検討委員(～現在)
5） 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会診断基準検討委員(～現在)
6） 日本 SIDS・乳幼児突然死予防学理事(～現在)

永井　淳：

1） 日本 DNA 多型学会評議員(平成 23 年 12 月～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

武内康雄：

1） 法医病理；編集委員長(～現在)
2） Legal Medicine；Editorial Board(～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

武内康雄：

1） 第 17 次日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会シンポジウム(平成 23 年 3 月，島根，「SIDS の原因に迫る」座長)
2） 第 95 次日本法医学会全国集会(平成 23 年 6 月，福島，特別講演「死後の眼底所見の観察と法医病理学的な 2, 3 の問題点」演者)

永井　淳：

1） 医用画像情報学会平成 23 年度年次(第 160 回)大会(平成 23 年 5 月，岐阜，教育講演「法医学における検査の役割～DNA の基礎から死後画像診断まで～」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

武内康雄：

1） 岐阜県公害審査会委員(～現在)

10. 報告書

1） 武内康雄：眼科用内視鏡を用いての法医剖検例における眼底所見の意義の検討：平成 19－20 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書：1－6(平成 21 年 5 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

年間 60～80 体の法医解剖の鑑定を嘱託されており，解剖やその後の検査，鑑定書作成等のため研究のための時間が制約されているが，それなりの成果をあげられたと思っている。

現状の問題点及びその対応策

法医学分野では，現在 2 名の教員が教育・研究・実務に従事しており，研究などの面では国内外から相応の評価を受けている。しかしながら，研究領域がやや固定化してきていることは否めず，また，人事が固定化しつつあるという問題点もある。そこで，今後は学外との共同研究を目指しながら，学問の進歩に則し新しい研究手法を取り入れ，時代の傾向に則して研究分野を広げる必要があると考えられる。また，本分野に新しい息吹を引き起こすために，大学院生が入学しやすい環境と設備を整えることが急務であると考えられる。

今後の展望

法医病理学的な研究として，今後外傷の病理，特に，受傷後早期に起こる変化について，分子病理学的研究を始めたい。DNA 多型に関する研究では，引き続き日本人集団における DNA 多型のデータベース化を進めるとともに，個人識別に有用な DNA 多型領域の検討ならびに DNA 多型のより効率的な検出法の開発等，世界の趨勢に遅れず，研究を推進していきたい。

（7）産業衛生学分野

1. 研究の概要

衛生学は広い意味での環境とヒトの関わりを解析し，ヒトの健康の保持・増進に寄与することを目的とした実学である。衛生学は包括的な応用科学であって，基礎医学に属するものではなく，社会医学の一分野である。従って，社会の要請に積極的に答えていかなくてはならない宿命にある。現在の産業衛生学分野の研究内容は，職場における実践活動を通じたもので，以下のような研究を行っている。

(1) 建設労働者，浄化槽法定検査業務従事者などの屋外労働者を対象に健康問題，作業環境，労働条件の検討を行い，快適職場づくりのための研究，(2) 熱中症，振動障害，騒音性難聴の予防の研究，(3) 各種職場における腰痛をはじめとした筋骨格系障害予防の研究，(4) 職場のメンタルヘルス対策の研究，(5)医師をはじめとした医療従事者および医療系学生の健康障害予防の研究を行っている。

2. 名簿

准教授：　井奈波良一　　Ryoichi Inaba

3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 宮下和久，森岡郁晴，井奈波良一．複合曝露：彼末和之監修．からだと温度の事典，東京：朝倉書店；2010年：484－485.
2) 井奈波良一．職場の熱中症予防対策(改訂版)，東京：労働調査会；2011年：1－14.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1) 井奈波良一，広瀬万宝子．民間埋蔵文化財発掘調査会社における労働安全衛生管理の実態，日本職業・災害医学会会誌　2009年；57巻：11－16.
2) 井奈波良一，広瀬万宝子，小野桂子，黒川淳一，井上眞人．建物解体作業者の夏期の自覚症状と暑熱対策，日本職業・災害医学会会誌　2009年；57巻：66－72.
3) 黒川淳一，井上眞人，井奈波良一，岩田弘敏．メンタルヘルス不調者に対する職場復帰支援の取り組みと事業場外資源に期待されること，日本職業・災害医学会会誌　2009年；57巻：73－85.
4) 黒川淳一，井上眞人，井奈波良一，岩田弘敏．メンタルヘルス不調者に対し職場復帰に向けて求められること，日本職業・災害医学会会誌　2009年；57巻：92－108.
5) 井奈波良一，黒川淳一，井上眞人．新医師臨床研修制度における1年目研修医の職業性ストレスと対処特性，日本職業・災害医学会会誌　2009年；57巻：161－167.
6) 近藤針次，下山一郎，山田守正，竹田　清，浦野博秀，井奈波良一，榊原規彰．手術時における容積脈派法とカテーテル法との血圧反応，医工学治療　2009年；21巻：259－263.
7) 井奈波良一，吉安裕樹，堀　貴光，堀内聖剛，清水三矢，広瀬万宝子，井上眞人，植木啓文．医学生の退学願望と睡眠時間，メンタルヘルス不調およびメランコリー親和型性格との関係，日本職業・災害医学会会誌　2010年；58巻：19－23.
8) 近藤針次，下山一郎，増田和実，井奈波良一，春名芳郎，榊原規彰．非観血容積脈派連続血圧測定法と観血式連続血圧測定法による血圧および心拍出量評価，医工学治療　2010年；22巻：3－10.
9) 井奈波良一，広瀬万宝子．バスガイドの靴のヒール高と職業性ストレスおよび疲労蓄積度の関係，日本職業・災害医学会会誌　2010年；58巻：70－75.
10) 井奈波良一，井上眞人．1年目研修医のバーンアウトと職業性ストレスおよび対処特性の関係，日本職業・災害医学会会誌　2010年；58巻：101－108.
11) 井垣通人，阪本一朗，井奈波良一．寒冷環境下の生活協同組合女性従業員を対象とした蒸気温熱シートの適用効果　第2報，日本職業・災害医学会会誌　2010年；58巻：128－134.
12) 井奈波良一，長縄　孝．一国立大学法人医学部における職場巡視結果の経年的分析，日本職業・災害医学会会誌　2010年；58巻：180－183.
13) 井奈波良一，井上眞人，日置敦巳．大規模自治体病院の男性勤務医のバーンアウトと勤務状況，職業性ストレスおよび対処特性の関係，日本職業・災害医学会会誌　2010年；58巻：220－227.
14) 広瀬万宝子，井奈波良一，井上眞人，黒川淳一．日韓女子大学生における携帯電話依存傾向と心理的ストレスの関係，民族衛生　2011年；77巻：19－25.

15) 小野桂子, 城　憲秀, 吉田英世, 唐沢　泉, 兵藤博行, 日置久視, 井上真人, 井奈波良一. 病院看護師のタイプ A 行動とバーンアウトとの関連性について, 日本職業・災害医学会会誌　2011 年；59 巻：1－7.
16) 井奈波良一, 井上眞人, 広瀬万宝子, 植木啓文. 男子医学生の退学願望とメランコリー親和型性格, メンタルヘルス不調および睡眠時間との関係, 日本職業・災害医学会会誌　2011 年；59 巻：49－52.
17) 井奈波良一, 広瀬万宝子. ゴルフ場コース管理従事者の夏期の自覚症状と暑熱対策, 日本職業・災害医学会会誌　2011 年；59 巻：63－68.
18) 井奈波良一, 井上眞人. 女子看護学生バーンアウトと携帯電話依存傾向および SOC の関係, 日本健康医学会雑誌　2011 年；20 巻：3－8.
19) 井奈波良一, 井上眞人：女性看護師のバーンアウトと職業性ストレスの関係－経験年数 1 年未満と 1 年以上の看護師の比較－, 日本職業・災害医学会会誌　2011 年；9 巻：129－136.

原著（欧文）
1) Hyodo H, Murata K, Murata S, Kurokawa J, Inaba R. Factors influencing the vitality of elderly women undergoing long-term medical treatment. JJOMT. 2009;57:17-23.
2) Inaba R, Kurokawa J, Mirbod SM. Comparison of subjective symptoms and cold prevention measures in winter between traffic control workers and construction workers in Japan. Ind Health. 2009;47:283-291. IF 0.950
3) Hyodo H, Inaba R, Murata K, Ohta K, Takahashi T, Hioki H, Ono K, Kanada Y. Study on emotional support for patients with dysphagia. Medicine and Biology 2009;153:134-142.
4) Inaba R, Mirbod SM. Subjective musculoskeletal symptoms in winter and summer among indoor working construction electricians. Ind Health. 2010;48:29-37. IF 0.950
5) Inaba R, Okumura M, Mirbod SM. Subjective symptoms of female workers sorting goods in summer. Ind Health. 2011;49:464-474. IF 0.950
6) Inaba R, Inoue M, Hioki A. Working conditions and coping profiles relating to job satisfaction in Japanese physicians allied with medical and surgical departments in large scale municipal hospitals. JJOMT. 2011;59:193-201.

4. 研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：横山和仁, 研究分担者：井奈波良一；厚生労働科学研究費補助金：労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援・介入のあり方に関する研究；平成 20－22 年度；2,050 千円(600：600：850 千円)
2) 研究代表者：井奈波良一；科学研究費補助金基盤研究(C)：医療従事者の職業性ストレスとその対策に関する研究；平成 21－23 年度；2,300 千円(800：700：800 千円)
3) 研究代表者：横山和仁, 研究分担者：井奈波良一；厚生労働科学研究費補助金：職場におけるメンタルヘルス対策の有効性と費用対効果に関する研究；平成 23 年度；500 千円

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

井奈波良一：
1) 日本衛生学会評議員(～現在)
2) 日本産業衛生学会代議員(～現在)
3) 日本民族衛生学会評議員(～現在)
4) 日本温泉気候物理医学会評議委員(～現在)

2）学会開催

なし

3）学術雑誌

井奈波良一：

1） 日本温泉気候物理医学会雑誌；編集委員(～平成 23 年 5 月)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

井奈波良一：

1） 第 83 回日本産業衛生学会(平成 22 年 6 月，福井，シンポジウム「病院勤務医師の労働条件の課題と展望：ディーセントワークの実現に向けて」シンポジスト)

2） 第 84 回日本産業衛生学会(平成 23 年 5 月，東京，シンポジウム「運輸業務従事者の労働衛生管理ー健康管理，労務管理を踏まえてー」シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

井奈波良一：

1） 岐阜市環境審議会委員(～現在)

2） 産業保健相談員(岐阜産業保健推進センター)(～現在)

3） 労働衛生指導医(岐阜労働局)(～現在)

4） 岐阜県環境影響評価審査会委員(～現在)

5） 岐阜県土壌・地下水汚染対策検討会委員(平成 21 年 5 月～平成 23 年 5 月)

6） 岐阜県産業廃棄物処理施設等意見調整委員会委員(平成 22 年 2 月～現在)

10. 報告書

1） 井奈波良一：メンタルヘルス不調労働者が欲する事業所，産業医，医療機関による早期支援に関する調査：平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金総括・分担研究報告書(横山班)：93－101(平成 21 年 3 月)

2） 井奈波良一：メンタルヘルス不調労働者および管理監督者が欲する労働者のメンタルヘルス問題への事業所，産業医，医療機関による早期支援に関する調査：平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金総括・分担研究報告書(横山班)：86－108(平成 22 年 3 月)

3） 井奈波良一：メンタルヘルス不調労働者および管理監督者が欲する労働者のメンタルヘルス問題への事業所，産業医，医療機関による早期支援に関する調査：平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金総括・分担研究報告書(横山班)：130－135(平成 23 年 3 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

概要に示した当分野の研究を実施し，論文を作成した。論文については，全体の数は十分だと考えられるが，欧文論文をさらに増やすべく努力が必要である。外部資金については，科学研究費補助金，厚生労働科学研究費補助金，奨学寄付金を得たが，今後も継続して獲得する必要がある。社会活動については十分行われていると考えている。

現状の問題点及びその対応策

教員が 1 名でマンパワーの面で問題があり，また研究室が手狭のため実験的な研究がほとんどできないという問題点がある。これを打開するために他分野，他施設との共同研究に力を入れている。

今後の展望

今後とも，職場の実践活動を通じた研究を行い，その成果を職場に還元したい。当面，教員数の増員は望めないので，産業衛生の重要性を強く訴え，また大学院生，研究生の受け入れや他分野，他施設との共同研究で当分野の発展の活路を見いだしたい。

（8）医学教育学分野

1．研究の概要

平成 20 年度（2008 年 4 月）より岐阜大学大学院医学系研究科医療管理学講座に「医学教育学」分野が開講された。医学教育学は，医学・医療教育分野における多面的な課題を究明し，効果的な教育方法を研究する学問領域であり，医学・医療教育を行うための具体的知識やスキルの習得を目指している。本課程を修了した者は，医学教育学の専門家として，教員・医師・学生等を指導する能力を有し，教育システムを自ら構築・改善し，研究を遂行できることを目標とする。医学教育開発研究センターは全国共同利用施設として活動しており，今後，全国からの大学院教育希望者の受け皿としても機能していきたいと考えている。

2．名簿

教授(併任)：　鈴木康之　　Yasuyuki Suzuki
教授(併任)：　藤崎和彦　　Kazuhiko Fujisaki
教授(併任)：　丹羽雅之　　Masayuki Niwa
助教(併任)：　若林英樹　　Hideki Wakabayashi
助教(併任)：　西城卓也　　Takuya Saiki

3．研究成果の発表

著書（和文）

1）鈴木康之．発語の遅れと特有の顔貌を指摘された 2 歳 6 ヶ月男児：症例から学ぶ先天代謝異常症，東京：診断と治療社；2009 年：168－171.
2）下澤伸行，鈴木康之，折居忠夫．出生時からの著明な筋緊張低下，哺乳不良に特異な顔貌を認めた生後 2 ヶ月男児：症例から学ぶ先天代謝異常症，東京：診断と治療社；2009 年：220－223.
3）加藤智美，丹羽雅之，藤崎和彦，鈴木康之編．新しい医学教育の流れ'09 冬－第 31 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2009 年：1－167.
4）若林英樹，鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之，鹿島晴雄編．新しい医学教育の流れ'09 春－第 32 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2009 年：1－171.
5）阿部恵子，丹羽雅之，藤崎和彦，鈴木康之編．新しい医学教育の流れ'09 夏－第 33 回医学教育セミナーとワークショップの記録－，名古屋：三恵社；2009 年：1－239.
6）阿部恵子，鈴木康之，Gibbs T, Evans P，宮田良平，横地律子，棚橋裕吉，中田由紀子，飯田啓太郎，伊藤真理子，阿部妃名子．Professor Gibbs' History Taking & Physical Examination　Gibbs 教授の英国流診察スキル－医療面接と系統的身体診察－，名古屋：三恵社；2009 年：1－50.
7）阿部恵子，若林英樹，Evans P，鈴木康之，岩田佳久．Practical English Conversation in the Medical Interview　Lower back Pain 英語で学ぶ医療面接の基礎－コミュニケーションと異文化理解－，名古屋：三恵社；2009 年：1－42.
8）藤崎和彦．医療コミュニケーションの特徴と実証研究の現状：橋本英樹編著．医療コミュニケーション－実証研究への多面的アプローチ，東京：篠原出版新社；2009 年：11－28.
9）藤崎和彦．医療コミュニケーションの実践に当たっての注意：橋本英樹編著．医療コミュニケーション－実証研究への多面的アプローチ，東京：篠原出版新社；2009 年：147－156.
10）藤崎和彦．中川米造先生の仕事をふりかえってみて：「資料展示会『医の倫理』の先駆者　中川米造回顧著作展－"医"とは何かを問い続けて－記念誌」，大津：滋賀医科大学附属図書館；2009 年：5－6.
11）藤崎和彦．出発点は『患者の求める良医』でした：日本医学教育学会編「人間学入門」，東京：南山堂；2009 年：115.
12）藤崎和彦．医療社会学について：黒田裕子監修．看護診断のためのよくわかる中範囲理論，東京：学習研究社；2009 年：90－96.
13）石川ひろの，阿部恵子，野呂幾久子，高山智子．藤崎和彦．機能的アプローチ：橋本英樹編著．医療コミュニケーション研究会編集．医療コミュニケーション-実証研究への多面的アプローチ，東京：篠原出版新社；2009 年：54－63.
14）鈴木康之，錦織　宏監訳．丹羽雅之ら分担翻訳．医学教育の理論と実践(A practical guide for medical teachers，原著第 2 版)，東京：篠原出版新社；2010 年：1－498.
15）阿部恵子，若林英樹，Evans P，鈴木康之，岩田佳久編．Practical English Conversation in the Medical Interview：Lower back Pain 英語で学ぶ医療面接の基礎　－コミュニケーションと異文化理解－，名古屋：三恵社；2010 年：1－50.
16）藤崎和彦，丹羽雅之，鈴木康之編．新しい医学教育の流れ'09 秋．第 34 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2010 年：1－233.
17）鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之，藤代健太郎編．新しい医学教育の流れ'10 春．第 36 回医学教育セミナーとワークショップの記録，名古屋：三恵社；2010 年：1－104.
18）若林英樹，鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之編．新しい医学教育の流れ'10 夏．第 37 回医学教育セミナーとワ

ークショップの記録, 名古屋：三恵社；2010 年：1－359.
19) 鈴木康之. 医学教育の学位課程：医学教育白書 2010 年版, 東京：篠原出版新社；2010 年：191－195.
20) 鈴木康之. 医学教育ユニットの会：医学教育白書 2010 年版, 東京：篠原出版新社；2010 年：123－125.
21) 丹羽雅之. 教務事務研修：医学教育学会編. 医学教育白書 2010 年版　医学教育別冊, 東京：篠原出版新社；2010 年：250－256.
22) 藤崎和彦. SP 養成：日本医学教育学会編. 医学教育白書 2010 年版, 東京：篠原出版新社；2010 年：52－54.
23) 藤崎和彦. 医学教育専門家育成検討委員会：日本医学教育学会編. 医学教育白書 2010 年版, 東京：篠原出版新社；2010 年：278.
24) 阿部恵子. 医療面接技能：日本医学教育学会編集. 医学教育白書 2010 年版('07～'10), 東京：篠原出版新社；2010 年：37－40.
25) 藤崎和彦. 学習方法：全国歯科衛生士教育協議会「平成 22 年度歯科衛生士専任教員講習会 I テキスト」, 愛知：全国歯科衛生士教育協議会；2010 年：4－12.
26) 鈴木康之. ハーラー/シャイエ症候群：症候群ハンドブック, 東京：中山書店；2011 年：387.
27) 鈴木康之. ライソゾームのムコ多糖症代謝. ライソゾーム病－最新の病態, 診断, 治療の進歩, 東京：診断と治療社；2011 年：19－21.
28) 鈴木康之. ムコ多糖症(MPS)III 型：ライソゾーム病－最新の病態, 診断, 治療の進歩, 東京：診断と治療社；2011 年：197－200.
29) 鈴木康之. 副腎白質ジストロフィー：先天代謝異常症 Diagnose at a Glance, 東京：診断と治療社；2011 年：149－151.
30) 阿部恵子, 丹羽雅之, 藤崎和彦, 鈴木康之, 植村和正. 新しい医学教育の流れ'10 秋. 第 38 回医学教育セミナーとワークショップの記録. 名古屋：三恵社；2011 年：1－180.
31) 藤崎和彦, 鈴木康之, 丹羽雅之, 井内康輝編. 新しい医学教育の流れ'11 冬. 第 39 回医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2011 年：1－232.
32) 加藤智美, 鈴木康之, 藤崎和彦, 丹羽雅之編. 新しい医学教育の流れ'11 春. 第 40 回医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2011 年：1－159.
33) 丹羽雅之, 藤崎和彦, 鈴木康之編. 新しい医学教育の流れ'11 夏. 第 41 回医学教育セミナーとワークショップの記録, 名古屋：三恵社；2011 年：1－214.
34) 丹羽雅之, 鈴木康之, 高橋優三. 7・4　インターネットテュトーリアル/楽位置楽 The Tutorial の開発と実践：日本薬学会編. 問題解決型学習ガイドブック－薬学教育に適した PBL テュトーリアルの進め方－, 東京：東京化学同人；2011 年：81－88.
35) 植松俊彦, 滝口祥令, 丹羽雅之編著. 新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 3－薬理学, 東京：メヂカルフレンド社；2011 年：1－283.
36) 川上ちひろ. 異性ともうまくつきあえる－対 PDD 男児の対異性行動の問題点と援助－：辻井正次編著. 特別支援教育実践のコツ－発達障害のある子どもの<苦手>を<得意>にする, 東京：金子書房；2011 年：130－135.
37) 藤崎和彦. 学習方法：全国歯科衛生士教育協議会「平成 23 年度歯科衛生士専任教員講習会Ⅱテキスト」, 岐阜：全国歯科衛生士教育協議会；2011 年：17－28.
38) 藤崎和彦. シミュレーション医学教育とは何か：日本医学教育学会教材開発・SP 小委員会編. シミュレーション医学教育入門, 東京：篠原出版新社；2011 年：2－12.
39) 藤崎和彦, 尾関俊紀. ロールプレイによるシミュレーション教育：日本医学教育学会教材開発・SP 小委員会編. シミュレーション医学教育入門, 東京：篠原出版新社；2011 年：107－113.
40) 藤崎和彦, 尾関俊紀. 模擬患者参加のシミュレーション教育：日本医学教育学会教材開発・SP 小委員会編. シミュレーション医学教育入門, 東京：篠原出版新社；2011 年：114－119.
41) 阿部恵子, 丹羽雅之, 藤崎和彦, 鈴木康之, 植村和正. 新しい医学教育の流れ'10 秋. 第 38 回医学教育セミナーとワークショップの記録. 名古屋：三恵社；2011 年：1－180.

著書（欧文）
なし

総説（和文）
1) 鈴木康之. 小児科における OSCE, 小児科　2009 年；50 巻：85－92.
2) 藤崎和彦. 地域をまもる医師をどう育てるか－新医師臨床研修制度見直しについて, 月刊国民医療　2009 年；262 巻：2－6.
3) 藤崎和彦. あなたは変われる タバコ編, G ニュースレター　2009 年；33 巻：4.
4) 藤崎和彦. あなたは変われる アルコール編, G ニュースレター　2009 年；34 巻：4.
5) 藤崎和彦. あなたは変われる 間食編, G ニュースレター　2009 年；35 巻：2－3.
6) 藤崎和彦. 医療関係職種教育における FD のシステム, 理学療法ジャーナル　2010 年；44 巻：317－324.
7) 鈴木康之. シミュレーション医学教育, 小児科臨床　2010 年；63 巻：55－57.
8) 鈴木康之, 下澤伸行. 日本先天代謝異常学会学会賞受賞論文「ペルオキシソーム病との 30 年：二人三脚の旅」, 日本先天代謝異常学会雑誌　2010 年；26 巻：2－12.
9) 鈴木康之.　ALD の造血幹細胞移植療法, Clinical Neuroscience　2011 年；29 巻：958－959.
10) 川上ちひろ, 辻井正次. 思春期広汎性発達障害男児への性教育プログラムの検討, 小児保健研究　2011

年；70 巻：402－411.
11） 井内康輝，藤崎和彦．第 39 回医学教育セミナーとワークショップ，医学教育　2011 年；42 巻：45－46.

総説（欧文）
1） Shimozawa N, Honda A, Kajiwara N, Kozawa S, Nagase T, Takemoto Y, Suzuki Y. Diagnostic and follow-up system of patients with X-linked adrenoleukodystrophy in Japan. J Hum Genet. 2011;56:106-109.
2） Tomatsu S, Montaño AM, Oikawa H, Smith M, Barrera L, Chinen Y, Thacker MM, Mackenzie WG, Suzuki Y, Orii T. Mucopolysaccharidosis type IVA (Morquio A disease):clinical review and current treatment. Curr Pharm Biotechnol. 2011;12:931-945.
3） Morita M, Shimozawa N, Kashiwayama Y, Suzuki Y, Imanaka T. ABC subfamily D proteins and very long chain fatty acid metabolism as novel targets in adrenoleukodystrophy. Curr Drug Targets. 2011;12:694-706.

原著（和文）
1） 升野光雄，黒木良和，松浦公美，福嶋義光，山内泰子，河村理恵，高田史男，丹羽雅之，鈴木康之．インターネットを利用した大学連携・問題基盤型遺伝カウンセラー教育の試み，日本遺伝カウンセリング学会誌 2009 年；30 巻：9－17.
2） 鈴木康之，吉岡俊正，吉田素文，田川まさみ，錦織　宏，西城卓也，守屋利佳，大谷　尚，渡邊洋子．次世代の医学教育者の育成に向けて，医学教育　2009 年；40 巻：235－236.
3） 鈴木康之，吉岡俊正，吉田素文，田川まさみ，錦織　宏，西城卓也，守屋利佳，大谷　尚，渡邊洋子．医学・医療教育学の専門家養成に関するニーズ調査結果，医学教育　2009 年；40 巻：237－241.
4） 丹羽雅之，藤崎和彦，加藤智美，阿部恵子，若林秀樹，高橋優三，鈴木康之．医学教育セミナーとワークショップ－30 回開催を振り返って，医学教育　2009 年；40 巻：367－374.
5） 阿部恵子，藤崎和彦，丹羽雅之，鈴木康之．Emotional Intelligence (EI) と Physician Empathy Scale (PES)(日本語訳)，医学教育 2009 年；40 巻：439－440.
6） 阿部恵子，奥野友香．ASPE (Association of Standardized Patient Educators) Annual Conference 2008 に参加して，医学教育　2009 年；40 巻：129－131.
7） 高橋優三，長野　功，呉　志良，加藤智美，鈴木康之，早川大輔．PBL のコアタイム省察用ポートフォリオ，医学教育 2010 年；41 巻：207－209.
8） 村岡千種，藤崎和彦．医療職が模擬患者を演じるということ－SP になるまでのプロセスと功罪－，日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会誌　2010 年；8 巻：21－30.
9） 川上ちひろ，阿部恵子，藤崎和彦，丹羽雅之，鈴木康之．保育園児・妊婦との継続的交流体験の教育的効果－医療系学生の気づきと学び，日本小児科学会雑誌　2011 年；115 巻：132－137.
10） 川瀬基子，半谷眞七子，亀井浩行，松葉和久，大橋　均，藤崎和彦．調剤薬局におけるがん患者と薬剤師のコミュニケーションに関するパイロット研究，医療薬学　2011 年；37 巻：559－566.
11） 志村俊郎，吉井文均，吉村明修，阿部恵子，高橋優三，佐伯晴子，藤崎和彦，阿曽亮子，井上千鹿子．医学部・医科大学における模擬患者・標準模擬患者養成および参加型教育に関する実態調査，医学教育　2011 年；42 巻：29－35.
12） 若林英樹，鈴木康之．英国グラスゴー大学のカリキュラムに学ぶ～総合診療/プライマリ・ケアをコアとする地域基盤型の卒前医学教育～，医学教育　2011 年；42 巻：371－374.

原著（欧文）
1） Aoki H, Hara A, Niwa M, Yamada Y, Kunisada T. In vitro and in vivo differentiation of human embryonic stem cells into retina-like organs and comparison with that from mouse pluripotent epiblast stem cells. Dev Dyn. 2009;583:2464-2468. IF 2.864
2） Niwa M, Hara A, Taguchi A, Aoki H, Kozawa O, Mori H. Spatiotemporal expression of Hsp20 and its phosphorylation in hippocampal CA1 pyramidal neurons following transient forebrain ischemia. Neurol Res. 2009;31:721-727. IF 1.621
3） Enomoto Y, Adachi S, Matsushima-Nishiwaki R, Niwa M, Tokuda H, Akamatsu S, Doi T, Kato H, Yoshimura S, Ogura S, Iwama T, Kozawa O. αB-crystallin extracellularly suppresses ADP-induced granule secretion from human platelets. FEBS Lett. 2009;583:2464-2468. IF 3.601
4） Shimizu A, Takahashi Y, Suzuki Y, Lefor AT. Preparing students for overseas rotations. Medical Education (Japan). 2009;40:47-53.
5） Rethans JJ, Ban N, Suzuki Y. Future use of skills laboratories at Medical Schools in Japan-how to transform these into effective educational departments? Medical Education (Japan). 2009;40:341-346.
6） Kuratsubo I, Suzuki Y, Krii KO, Kato T, Orii T, Kondo N. Psychological status of patients with mucopolysaccharidosis type II and their parents. Pediatr Intl. 2009;50:41-47. IF 0.755
7） Suzuki Y, Aoyama A, Kato T, Shimozawa N. Retinitis pigmentosa and mucopolysaccharidosis type II-an extremely attenuated phenotype. J Inher Metab Dis. 2009;32:582-583. IF 3.808
8） Wakabayashi H, Diaz LA, Rubenstein D, Lefor A, Kitajima Y, Aoyama Y, Suzuki Y, Takahashi Y, Ban N. Three essential conditions to cultivate physician scientists. Medical Education (Japan). 2009;40:433-437.

9) Abe K, Suzuki T, Fujisaki K, Ban N. A national survey to explore the willingness of Japanese standardized patient to participate in teaching physical examination skills to undergraduate medical students. Teaching and Learning in Medicine. 2009;21:240-247. IF 0.679
10) Cleland J, Abe K, Rethans J. The use of simulated patients in medical education- AMEE Guide No 42. Medical Teacher. 2009;31:477-486. IF 1.494
11) Okuyama T, Tanaka A, Suzuki Y, Ida H, Tanaka T, Cox GF, Eto Y, Orii T. Japan Elaprase Treatment (JET) study: idursulfase enzyme replacement therapy in adult patients with attenuated Hunter syndrome (Mucopolysaccharidosis II, MPS II). Mol Genet Metab. 2010;99:18-25. IF 3.539
12) Tomatsu S, Montaño AM, Oguma T, Dung VC, Oikawa H, Guitiérrez ML, Yamaguchi S, Suzuki Y, Fukushi M, Barrera L, Orii T. Validation of disaccharide composition derived from dermatan sulfate and heparan sulfate in mucopolysaccharidoses and mucolipidoses II and III by tandem mass spectrometry. Mol Gene Metab. 2010;99:124-131. IF 3.539
13) Tomatsu S, Montaño AM, Oguma T, Dung VC, Oikawa H, de Carvalho TG, Gutiérrez ML, Yamaguchi S, Suzuki Y, Fukushi M, Sakura N, Barrera L, Kida K, Kubota M, Orii T. Dermatan sulfate and heparan sulfate as a biomarker for mucopolysaccharidosis I. J Inherit Metab Dis. 2010;33:141-150. IF 3.808
14) Enomoto Y, Adachi S, Matsushima-Nishiwaki R, Doi T, Niwa M, Akamatsu S, Tokuda H, Ogura S, Yoshimura S, Iwama T, Kozawa O. Thromboxane A2 promotes soluble CD40 ligand release from human platelets. Atherosclerosis. 2010;209:415-421. IF 4.086
15) Hara A, Taguchi A, Aoki H, Hatano Y, Niwa M, Yamada Y, Kunisada T. Folate antagonist, methotrexate induces neuronal differentiation of human embryonic stem cells transplanted into nude mouse retina. Neurosci Lett. 2010;477:138-143. IF 2.055
16) Abe K, Sato J, Wakabayashi H, Ban N. Knowing the patient better: how facilitated sharing of diabetes patients' life stories enhances patient/physician relationships but not metabolic control. General Medicine. 2010;11:79-86.
17) Hintze JP, Tomatsu S, Fujii T, Montaño AM, Yamaguchi S, Suzuki Y, Fukushi M, Ishimaru T, Orii T. Comparison of liquid chromatography-tandem mass spectrometry and sandwich ELISA for determination of keratan sulfate in plasma and urine. Biomark Insights. 2011;6:69-78.
18) Satoh K, Niwa M, Goda W, Binh NH, Nakashima M, Takamatsu M, Hara A. Galectin-3 expression in hippocampal CA1 injury following transient forebrain ischemia, and its inhibition by hypothermia. Brain Res. 2011;1382:266-274. IF 2.623
19) Satoh K, Niwa M, Binh NH, Nakashima M, Kobayashi K, Takamatsu M, Hara A. Increase of galectin-3 expression in microglia by hyperthermia in delayed neuronal death of hippocampal CA1 following transient forebrain ischemia. Neurosci Lett. 2011;504:199-203. IF 2.055

4．研究費獲得状況

1）競争的資金

1) 研究代表者：衛藤義勝，研究分担者：鈴木康之；厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：ライソゾーム病(ファブリー病含む)に関する調査研究班；平成 19－21 年度；6,500 千円(2,000：2,000：2,500 千円)
2) 研究代表者：山口清次，研究分担者：鈴木康之；厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業：タンデムマス等の新技術を導入した新しいマススクリーニング体制の確立に関する研究班；平成 19－21 年度；500 千円(200：150：150 千円)
3) 研究代表者：森　秀樹，推進責任者：鈴木康之；文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム(テーマ 6)：臨床医学教育を強化向上させる ICT；平成 19－21 年度；67,849 千円(23,993：21,980：21,876 千円)
4) 研究代表者：古田善伯，研究分担者：鈴木康之；経済産業省平成 21 年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業：全学的な社会人基礎力育成をめざす教育システムの開発(岐阜大学)；平成 21 年度；1,091 千円
5) 研究代表者：加藤智美，共同研究者：鈴木康之，藤崎和彦，丹羽雅之，阿部恵子，若林英樹；大学活性化経費(教育)「学士力の育成を目指す教育プログラム」：医療面接実習～動画を用いた振り返りの促進～；平成 21 年度；490 千円
6) 研究代表者：西澤正豊，研究分担者：鈴木康之；厚生労働科学研究費難治性疾患克服研究事業：運動失調症に関する調査研究班；平成 20－22 年度；3,600 千円(1,200：1,200：1,200 千円)
7) 研究代表者：奥山虎之，研究分担者：鈴木康之；厚生労働科学研究費医療技術実用化総合研究事業：新規治療法が開発された小児稀少難病の疫学調査と長期フォローアップ体制の確立；平成 20－22 年度；6,000 千円(2,000：2,000：2,000 千円)
8) 研究代表者：鈴木康之；科学研究費補助金基盤研究(C)：小児科領域における客観的臨床能力評価システムの開発；平成 20－22 年度；3,500 千円(2,300：700：500 千円)

9） 研究代表者：丹羽雅之；科学研究費補助金基盤研究(C)：コバルトクロライド誘発網膜神経障害モデルを用いた再生治療に関する基礎的研究；平成 22－24 年度；4,160 千円(1, 690：1,560：910 千円)
10） 研究代表者：河野健一，研究分担者：丹羽雅之；科学研究費補助金基盤研究(C)：6 年一貫プロフェショナリズム教育における e-ポートフォリオの開発と実践；平成 22－24 年度；3,640 千円(1,300：1,170：1,170 千円)
11） 研究代表者：衛藤義勝，研究分担者：鈴木康之；厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：ライソゾーム病(ファブリー病含む)に関する調査研究班；平成 22－24 年度；7,800 千円(2,600：2,600：2,600 千円)
12） 研究代表者：伴信太郎，研究分担者：植村和正，西城卓也；科学研究費補助金挑戦的萌芽研究：スキルスラボ教育を活性化させる非常勤医師再教育プログラム開発；平成 21－23 年度；4,576 千円(2,226：1,360：990 千円)
13） 研究代表者：伴信太郎，研究分担者：六反一仁，西城卓也；科学研究費補助金基盤研究(B)：慢性疲労症候群に対する漢方治療と認知行動療法を融合した集学的な治療戦略の確立；平成 21－23 年度；17,810 千円(9,620：5,330：2,860 千円)
14） 研究代表者：鈴木富雄，研究分担者：伴信太郎，佐藤寿一，西城卓也；科学研究費補助金基盤研究(C)：患者中心のコミュニケーション教育プログラム(PEAC)の開発とその評価；平成 21－23 年度；4,550 千円(1,560：1,430：1,560 千円)
15） 研究代表者：樫田美雄，研究分担者：若林英樹；学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究：在宅医療文化のビデオエスノグラフィー～生活と医療の相互浸透関係の探究～；平成 23 年度；360 千円
16） 研究代表者：阿部恵子，研究分担者：若林英樹，川上ちひろ；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：医学生の情動能力育成のための 6 年間継続的コミュニケーション教育プログラムの開発；平成 23－25 年度；5,200 千円(2,340：1,430：1,430 千円)

2）受託研究

なし

3）共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1）学会役員

鈴木康之：

1） 日本医学教育学会評議員(～現在)
2） 日本医学教育学会理事，評議員(～現在)
3） 日本小児科学会代議員，教育委員会(～現在)
4） 日本先天代謝異常学会理事，評議員(～現在)
5） 日本人類遺伝学会評議員(～現在)
6） 東海臨床遺伝・代謝懇話会世話人(～現在)

藤崎和彦：

1） 日本医学教育学会理事，評議員(～現在)
2） 日本医学教育学会教材開発 SP 養成委員会同顧問(～現在)
3） 日本医学教育学会医学教育専門家育成検討委員会委員長(～現在)
4） 医療コミュニケーション研究会会長(～現在)
5） RIAS 研究会日本支部(RIAS Japan)代表(～現在)
6） 日本医療経済学会幹事(～現在)

丹羽雅之：

1） 日本医学教育学会広報委員会委員(平成 21 年 1 月～現在)
2） 日本炎症・再生医学会評議員(～現在)

3） 日本薬理学会評議員(～現在)
4） 日本医学教育学会評議員(～現在)
5） 日本臨床薬理学会評議員(～現在)
6） 日本医学教育学会情報基盤委員会委員(平成 21 年 1 月～現在)
7） 日本医学教育学会特別領域情報基盤開発委員会委員(平成 22 年 1 月～現在)
8） 日本 M&S 医学教育研究会幹事・評議員(平成 22 年 11 月～現在)
9） 医療系 e-learning 全国交流会 副会長(平成 23 年 10 月～現在)

阿部恵子：
1） Association of Standardized Patient Educators, International committee member (～現在)
2） RIAS 研究会委員(～現在)
3） 日本医学教育学会, 教材開発・SP 委員会委員(平成 21 年 4 月～現在)

若林英樹：
1） 日本医学教育学会準備教育・行動科学教育委員会委員(平成 21 年 1 月～現在)
2） 日本医学教育学会・行動科学準備教育委員会委員(平成 21 年 4 月～現在)
3） 家族志向のヘルスケア研究会設立代表(平成 20 年～現在)

西城卓也：
1） 日本医学教育学会医学教育専門家育成検討委員会委員(～現在)
2） 日本医学教育学会国際関係委員会委員(～現在)

2）学会開催

鈴木康之：
1） 第 31 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 21 年 1 月, 岐阜)
2） 第 32 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 21 年 5 月, 東京)
3） 第 33 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 21 年 8 月, 岐阜)
4） 第 10 回国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修(平成 21 年 10 月, 岐阜)
5） 第 34 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 21 年 11 月, 札幌)
6） 第 35 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 22 年 1 月, 岐阜)
7） 第 36 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 22 年 5 月, 東京)
8） 第 37 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 22 年 8 月, 岐阜)
9） 第 11 回国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修(平成 22 年 10 月, 岐阜)
10） 第 38 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 22 年 11 月, 名古屋)
11） 医学教育研究指導者向けのワークショップ～研究と論文発表の道案内をするには～(平成22年12月, 岐阜)
12） 第 1 回医学教育研究大学院生向けのワークショップ～研究着手から論文発表までのプロセスに必要なこと～(平成 22 年 12 月, 名古屋)
13） 第 39 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 23 年 1 月, 岐阜)
14） 第 40 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 23 年 5 月, 岐阜)
15） 第 41 回医学教育セミナーとワークショップ(平成 23 年 8 月, 岐阜)

藤崎和彦：
1） 第 18 回医療コミュニケーション研究会例会開催(平成 22 年 6 月, 名古屋)
2） 第 19 回医療コミュニケーション研究会例会開催(平成 22 年 12 月, 名古屋)
3） 第 20 回医療コミュニケーション研究会例会開催(平成 23 年 6 月, 名古屋)
4） 第 21 回医療コミュニケーション研究会例会開催(平成 23 年 12 月, 名古屋)

阿部恵子：
1） 第 4 回 RIAS ワークショップ(平成 21 年 7 月－8 月, 名古屋)

藤崎和彦・阿部恵子：
1） 第 5 回 RIAS トレーニングワークショップ(平成 22 年 8 月, 東京)

2） 第 6 回 RIAS トレーニングワークショップ(平成 23 年 7 月，名古屋)

若林英樹：

1） 第 2 回家族志向のヘルスケア研究会ワークショップ「メディカルファミリーセラピー」，テーマ：患者・家族中心の医療で鍵となるものは？(平成 22 年 11 月，東京)

3）学術雑誌

鈴木康之：

1） Medical Education；Editor(～現在)

7．学会招待講演，招待シンポジスト，座長

鈴木康之：

1） International Seminar for Medical Education(2009.01, Seoul, Medical Education in Gifu University School of Medicine; performer)
2） WONCA Asia Pacific Regional Conference(2009.06, Hong-Kong, Developing Family Medicine: the importance of modern medical education; performer)
3） 第 41 回日本医学教育学会(平成 21 年 7 月，大阪，岐阜大学医学部における学生定員増への対応．シンポジスト)
4） 第 51 回日本先天代謝異常学会(平成 21 年 11 月，東京，日本先天代謝異常学会学会賞受賞講演「ペルオキシソーム病との 30 年：二人三脚の旅」演者)
5） 札幌市立大学看護学部（平成 22 年 2 月，札幌,「看護 OSCE」助言者)
6） 第 113 回日本小児科学会学術集会(平成 22 年 4 月，盛岡，小児科医育成の目標と戦略．シンポジウム 2「小児科学の卒後教育：世界トップレベルの小児科医を育成するために」シンポジスト)
7） 第 9 回北陸小児救急・集中治療研究会(平成 22 年 5 月，金沢,「小児医療教育：最近の考え方と取組」演者)
8） 滋賀医科大学 FD 研修会(平成 22 年 7 月，大津，「少人数能動学習ワークショップ」演者)
9） 日本外来小児科学会第 14 回実習指導者研究会(平成 22 年 7 月，西宮，「小児科医と医学教育」演者)
10） 第 52 回日本先天代謝異常学会(平成 22 年 10 月，大阪, Intrathecal Enzyme Replacement Therapy in Hunter Syndrome (MPS II)by Muenzer J 座長)
11） 平成 22 年度弘前大学 FD シンポジウム(平成 22 年 12 月，弘前,「岐阜大学におけるポートフォリオ活用の試み - 1 年次地域体験実習と 5 年次医療面接実習における振り返りの促進と教員からのフィードバック - 」シンポジスト)
12） 岐阜地区女医会(平成 23 年 1 月，岐阜，「最近の医学教育のトピックス」演者)

藤崎和彦：

1） 現代 GP「双方向型医療コミュニケーション教育の展開」(平成 21 年 3 月，札幌，「医療系大学における実践的コミュニケーション教育について」シンポジスト)
2） 模擬患者参加型教育フォーラム in 岡山(平成 22 年 2 月，岡山，基調講演「我が国の医療教育における模擬患者の役割」演者)
3） 大阪大谷大学薬学部 SP 研修会(平成 22 年 4 月，大阪，特別講演「OSCE だけで終わらない SP 参加型コミュニケーション教育」演者)
4） 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会ワークショップ(平成22年6月，薬学部模擬患者交流会＆ファシリテーター養成講座基調講演「全国薬学部の SP 会の状況と維持発展の知恵」演者)
5） 第 4 回九州地区医療コミュニケーション教育ワークショップ(平成 22 年 6 月，タスクフォース)
6） 全国歯科衛生士教育協議会教員研修会(平成 22 年 7 月，基調講演「世界的な医学教育の動向と学習方法の考え方」演者)
7） 第 42 回日本医学教育学会大会(平成 22 年 7 月，東京，シンポジウムⅡ 市民の参加する医学教育のあり方 「我が国における SP の標準化の現状と課題」シンポジスト)
8） 共用試験実施機構医科 OSCE 模擬患者標準化に関するワークショップ(平成 22 年 8 月－9 月， 基調講演「日本での SP 育成の歴史や課題」演者)
9） 第 2 回共用試験実施機構医科 OSCE 外部評価者認定講習会(平成 22 年 10 月,「医療面接」座長)
10） 香川模擬患者フォーラム基調講演(平成 22 年 10 月，高松市，「模擬患者(SP)の医療人教育における役割－その現状と将来－」演者)

11） 第 1 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会(平成 22 年 10 月，岐阜，チーフタスクフォース)
12） 島根県立大学看護短期大学部 FD 研修会(平成 22 年 11 月，島根，特別講演「シミュレーション教育と SP 参加型教育の最新事情」演者)
13） 第 5 回医療コミュニケーション教育研究セミナー(平成 22 年 11 月，広島，教育講演「医療現場に必要なコミュニケーション教育」演者)
14） 札幌市立大学看護学部模擬患者特別研修会(平成 22 年 11 月，札幌，特別講演「模擬患者に求められているフィードバックとは」演者)
15） 模擬患者参加型教育フォーラム in 岡山(平成 23 年 2 月，岡山，基調講演「我が国の医療教育における模擬患者の役割」演者)
16） シンポジウム 歯学士教育課程でのプロフェッショナリズム教育の構築(平成 23 年 5 月，北九州，特別講演「医療人育成のためのプロフェッショナリズム教育」演者)
17） 名城大学薬学部平成 23 年度卒後教育講座(平成 23 年 5 月，名古屋，特別講演「薬剤師に必要なコミュニケーションスキル」演者)
18） 岐阜大学じゅうろく銀行産学連携くるるセミナー(平成 23 年 7 月，大垣，セミナー「病気になるということ」演者)
19） 第 43 回日本医学教育学会大会(平成 23 年 7 月，広島，シンポジウム「医学教育専門家認定制度を考える」座長)
20） 第 43 回日本医学教育学会大会(平成 23 年 7 月，広島，シンポジウム 医学教育専門家認定制度を考える「医学教育専門家認定制度とは」シンポジスト)
21） 第 43 回日本医学教育学会大会(平成 23 年 7 月，広島，プレコングレスワークショップ「医学教育ポートフォリオを体感する」ファシリテーター)
22） 第 3 回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会(平成 23 年 9 月，福岡，ワークシップ 3「医療コミュニケーション関連演題」座長)
23） 第 35 回日本医療経済学会研究大会(平成 23 年 9 月，岐阜，シンポジウム「低成長時代の医療保障の動向」座長)
24） 人工知能学会 言語・音声理解と対話処理研究会医療コミュニケーション(平成 23 年 10 月，東京，シンポジウム特別講演「医療コミュニケーション研究の現状とチーム医療」演者)
25） 第 21 回日本医療薬学会年会ワークショップ 2「SP 参加型研修でコミュニケーション能力を高めようー『がんサバイバー』を題材として」(平成 23 年 10 月，神戸，特別講演「なぜ SP 参加型研修なのか」演者)

丹羽雅之：
1） 1st Asia-pacific joint PBL conference 2010, Joint conference of APC PBL and APA PHS(2010.10, Taipei, Taiwan, Symposium 5:E-PBL:Internet-PBL for postgraduate life science education; シンポジスト)
2） 第 12 回薬事フォーラム 52(平成 22 年 11 月，京都,「細胞死と病気，その再生」演者)

阿部恵子：
1） 東京薬科大学模擬患者養成セミナー(平成 21 年 3 月，東京,「フィードバックの基本」演者)
2） 東京理科大学薬学部模擬患者養成セミナー(平成 21 年 3 月，千葉，「世界の模擬患者とフィードバックの基本」演者)
3） 埼玉県立大学看護学部第 3 回模擬患者養成セミナー(平成 21 年 10 月，埼玉,「SP からのフィードバック」演者)
4） The 9th Annual Association of Standardized Patient Educators Conference, International Committee Presentation and Workshop 2010(2010, Volunteer patients, real patients and simulated patients:Participants around the world-how ethnically diverse are we?「Simulated/Standardized Patients in Japan」Presenter)
5） 第 42 回日本医学教育学会(平成 22 年 7 月，シンポジウム II 市民の参加する医学教育のあり方 「国内外の身体診察に参加する模擬患者の現状」シンポジスト)
6） 埼玉県立大学看護学部看護学科，第 4 回模擬患者養成セミナー(平成 22 年 9 月，埼玉,「SP のフィードバック」演者)
7） 東京大学医学教育国際協力研究センター アフガニスタン研修会(平成 22 年 10 月, Teaching medical

interview collaboration with SP；演者)

若林英樹：
1) 第 3 回秋田大学医学部付属病院臨床研修指導医養成講習会(平成 21 年 10 月，秋田,「家族・患者への説明～シミュレーションとしてのロールプレイの効果を考える～」，演者および座長)
2) 第 1 回家庭医療指導医養成ワークショップ(平成 21 年 11 月，名古屋,「家族志向のプライマリケアをどう教えるか」演者および座長)
3) 第 1 回家族志向のヘルスケアワークショップ(平成 21 年 12 月，名古屋,「家族志向のプライマリ・ケア」演者および座長)
4) 第 27 回日本家族研究家族療法学会(平成 22 年 6 月，郡山，ワークショップ「医療のための家族の知識」パネリスト)
5) 第 42 回日本医学教育学会(平成 22 年 7 月，東京，ポスターセッション 13「地域医療教育，その他」座長)
6) 家庭医療サマーフォーラム in 福島(平成 22 年 8 月，福島県南会津郡只見町,「福島県立医科大学・地域家庭医療学講座 2010」演者)
7) 第 43 回日本医学教育学会大会．パネル・ディスカッション「準備教育をアウトカム基盤型で考える～その可能性と課題～」(平成 23 年 7 月，広島，パネリスト「地域での継続的交流から体験学習するプログラム：岐阜大学での新しい取り組み」演者)
8) 恵寿総合病院，能登地域総合診療強化委員会主催 能登家庭医療道場(平成 23 年 10 月，七尾,「地域医療で役立つ家族志向のケア」演者)

西城卓也：
1) 第 43 回日本医学教育学会(平成 23 年 7 月，広島，シンポジウム「医学教育専門家認定制度を考える」シンポジスト)
2) 第 43 回日本医学教育学会(平成 23 年 7 月，広島，「インターナショナルセッション」座長)
3) 信大病院を中心とした医師卒後教育ワークショップ 2011(平成 23 年 10 月，信州，タスクフォース)
4) 東京大学医学教育国際協力研究センター アフガニスタン研修会(2011.10，Tokyo，Effective Amburatory Teaching；演者)

8. 学術賞等の受賞状況

1) 鈴木康之，下澤伸行：日本先天代謝異常学会賞(平成 21 年度)

9. 社会活動

鈴木康之：
1) 医師国家試験委員(～現在)
2) 日本ムコ多糖症親の会顧問(～現在)
3) ALD 親の会顧問(～現在)
4) 東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター運営委員(～現在)
5) 共用試験 CBT モニター委員(平成 21 年度)
6) 社団法人日本専門医制評価・認定機構チーフサーベイヤー(～現在)

藤崎和彦：
1) 医師国家試験委員(～現在)
2) 医療系大学間共用試験実施評価機構医学系 OSCE 事後評価解析小委員会委員(～現在)
3) 医療系大学間共用試験実施評価機構医学系 OSCE 学習・評価項目等改訂専門部会委員(～現在)
4) 医療系大学間共用試験実施評価機構医学系 OSCE 課題改訂専門部会委員(～現在)
5) 医療系大学間共用試験実施評価機構医学系 SP 標準化小委員会委員(～現在)
6) 新城市健康づくり計画策定会議アドバイザー(～現在)

丹羽雅之：
1) 共用試験 CBT モニター委員(平成 21 年度)

若林英樹：

1) 名古屋大学総合診療科家族志向のプライマリ・ケアカンファレンス指導医(～現在)
2) 名古屋大学招へい教員(総合診療科)大学院授業「行動科学と家族志向のケア」主催(～現在)
3) 日本プライマリ・ケア連合学会東日本大震災震災支援チーム(PCAT)研修・教育部リーダー(平成 23 年 3－5 月)
4) 日本プライマリ・ケア連合学会東日本大震災震災支援チーム(PCAT)こころのケアチームリーダー(平成 23 年 6 月～現在)
5) 日本家族研究・家族療法学会震災支援委員会委員(平成 23 年 6 月～現在)

10. 報告書

1) 鈴木康之, 倉坪和泉, 折居忠夫, 折居恒治, 加藤智美：イソフラボンによるムコ多糖症の試験的治療：厚生労働科学研究費(難治性疾患克服研究事業)ライソゾーム病(ファブリー病含む)に関する調査研究班　平成 20 年度研究報告書：35－36(平成 21 年 3 月)
2) 鈴木康之, 下澤伸行:副腎白質ジストロフィー克服への取組に関する研究－発症前診断に関するガイドライン作成に向けて－:厚生労働科学研究費(難治性疾患克服研究事業)運動失調症に関する調査研究班　平成 20 年度研究報告書：111－113(平成 21 年 3 月)
3) 鈴木康之, 奥山虎之, 田中あけみ：ムコ多糖症 IV 型に対する疫学調査：厚生労働科学研究費(臨床研究・予防・治療技術開発研究事業)新規治療法が開発された小児稀少難病の疫学調査と長期フォローアップ体制の確立に関する研究班　平成 20 年度総括分担報告書：15－16(平成 21 年 3 月)
4) 加藤俊一, 奥山虎之, 田中あけみ, 酒井規夫, 鈴木康之, 矢部普正, 高倉広充:造血幹細胞移植を受けたムコ多糖症患者の長期予後調査：厚生労働科学研究費(臨床研究・予防・治療技術開発研究事業)新規治療法が開発された小児稀少難病の疫学調査と長期フォローアップ体制の確立に関する研究班　平成 20 年度総括分担報告書：17－20(平成 21 年 3 月)
5) 鈴木康之, 倉坪和泉：ムコ多糖症患者・家族の意識調査：厚生労働科学研究費(子ども家庭総合研究事業）タンデムマス等の新技術を導入した新しいマススクリーニング体制の確立に関する研究班　平成 20 年度総括・分担研究報告書：49－50(平成 21 年 3 月)
6) 山口清次, 松原洋一, 長谷川有紀, 福士　勝, 大浦敏博, 高柳正樹, 佐倉伸夫, 但馬　剛, 虫本雄一, 深尾敏幸, 坂本　修, 田中あけみ, 鈴木康之, 小熊敏広, 北川照男, 奥山虎之, 新宅治夫, 大和田操：新しい新生児マススクリーニング体制の検討：厚生労働科学研究費子ども家庭総合研究事業；タンデムマス等の新技術を導入した新しいマススクリーニング体制の確立に関する研究班　平成 20 年度総括・分担研究報告書：11－16(平成 21 年 3 月)
7) 藤崎和彦：SP(standardized patient)について：平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「試験問題プール制の推進等国家試験の改善に関わる研究」分担研究「OSCE の実施に関する研究」報告書「医師国家試験 OSCE 実施概要」：10(平成 21 年 3 月)
8) 藤崎和彦：医師国家試験 OSCE での標準模擬患者 SP について：平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「試験問題プール制の推進等国家試験の改善に関わる研究」分担研究「OSCE の実施に関する研究」報告書「医師国家試験 OSCE 実施概要」：35－36(平成 21 年 3 月)
9) 丹羽雅之：コバルトクロライド誘発視細胞選択的障害モデルの発現機序解明ならびにその防御・治療：平成 19－20 年度　科学研究費補助金基盤(C)研究成果報告書：5 (平成 21 年 5 月)
10) 阿部恵子：第 33 回医学教育セミナーとワークショップ：ニューズ. 医学教育 40：395(平成 21 年 10 月)
11) 野呂幾久子, 阿部恵子, 伴信太郎：客観的臨床能力試験(OSCE)医療面接におけるジェンダーとコミュニケーション・スタイルの関係：医学教育 41：1－62(平成 22 年 2 月)
12) 鈴木康之, 戸松俊治, アドリアナ・モンタノ：ムコ多糖症 II 型の乳児期早期の身体発育について：厚生労働科学研究費(子ども家庭総合研究事業)タンデムマス等の新技術を導入した新しいマススクリーニング体制の確立に関する研究班　平成 21 年度総括・分担研究報告書：56－57(平成 22 年 3 月)
13) 山口清次, 長谷川有紀, 虫本雄一, 佐倉伸夫, 但馬　剛, 高柳正樹, 松原洋一, 深尾敏幸, 坂本　修, 大浦敏博, 福士　勝, 鈴木康之, 田中あけみ, 北川照男, 新宅治夫, 大和田操, 奥山虎之, 小熊敏広, 戸松俊治, 折居忠夫：新しい新生児マススクリーニング体制の検討：厚生労働科学研究費(子ども家庭総合研究事業)タンデムマス等の新技術を導入した新しいマススクリーニング体制の確立に関する研究班　平成 19－21 年度総合研究報告書：17－25(平成 22 年 3 月)

14) 鈴木康之, 下澤伸行 : 副腎白質ジストロフィー日本人家系解析と発症前診断と取組 : 厚生労働科学研究費(難治性疾患克服研究事業)運動失調症に関する調査研究班　平成 21 年度研究報告書:83－85(平成 22 年 3 月)
15) 辻　省次, 後藤　順, 高橋祐二, 市川弥生子, 松川敬志, 下澤伸行, 鈴木康之 : 副腎白質ジストロフィーの生体資料収集及び臨床病型修飾因子についての研究 : 厚生労働科学研究費(難治性疾患克服研究事業)運動失調症に関する調査研究班　平成 21 年度研究報告書 : 81－82(平成 22 年 3 月)
16) 鈴木康之, 折居忠夫, 奥山虎之, 田中あけみ, 知念安紹, 戸松俊治, Wegrzyn G : イソフラボンによるムコ多糖症の試験的治療 : 厚生労働科学研究費(難治性疾患克服研究事業)ライソゾーム病(ファブリー病含む)に関する調査研究班　平成 21 年度研究報告書 : (平成 22 年 3 月)
17) 鈴木康之, 奥山虎之, 田中あけみ, 折居忠夫, 戸松俊治 : 厚生労働科学研究費(医療技術実用化研究事業)新規治療法が開発された小児稀少難病の疫学調査と長期フォローアップ体制の確立に関する研究班　平成 21 年度総括分担報告書(平成 22 年 3 月)
18) 鈴木康之 : 臨床医学教育を強化向上させる ICT －e-Learning で培う医の心と技－ : 現代的教育ニーズ取組支援プログラム報告集 平成 21 年度補助期間終了取組 : 1－89(平成 22 年 3 月)
19) 丹羽雅之 : 第 35 回医学教育セミナーとワークショップ : 医学教育 41 : 110(平成 22 年 4 月)
20) 丹羽雅之 : 全国ユニット機関名簿 : 医学教育 41 : 226－232(平成 22 年 6 月)
21) 鈴木康之, 藤代健太郎 : 第 36 回医学教育セミナーとワークショップ : 医学教育 41 : 272(平成 22 年 8 月)
22) 若林英樹 : 米国大学院への留学経験～異文化の中で学んだ家族療法 : 家族療法研究 27 : 75－79(平成 22 年 8 月)
23) 藤崎和彦 : 世界的な医学教育改革の動向と日本の医学教育 : 第 3 回医学教育ワークショップ記録集 愛知医科大学 : 3－34(平成 22 年 9 月)
24) 藤崎和彦 : 岐阜大学における医学生の態度・人間性教育の試み : 第 28 回「関西医科大学医学教育ワークショップ」記録 : 33－42(平成 22 年 10 月)
25) 藤崎和彦 : 医療現場に必要なコミュニケーション教育 : 日本コミュニケーション学会中国四国支部「医療コミュニケーション 2010」: 25－37(平成 22 年 11 月)
26) 鈴木康之 : 6 年一貫の徹底した職業人養成教育が, おのずと社会人基礎力を育てる : 経済産業省　社会人基礎力育成の手引き –日本の将来を託す若者を育てるために : 478－487(平成 22 年 12 月)
27) 鈴木富雄, 阿部恵子, 桑畠　愛, 河野直子, 伴信太郎 : 研修医の抱える問題から示唆された卒前行動科学教育の課題 - グループインタビューによる質的分析 : 日本保健医療行動科学会年 25 : 209－224(平成 22 年)
28) 鈴木康之, 下澤伸行 : 副腎白質ジストロフィーの早期診断・治療に関する研究 : 厚生労働科学研究費(難治性疾患克服研究事業)運動失調症に関する調査研究班　平成 20－22 年度総括研究報告書 : 11－14(平成 23 年 3 月)
29) 鈴木康之, 下澤伸行 : 副腎白質ジストロフィーの早期診断・治療に関する研究(平成 22 年度) : 厚生労働科学研究費(難治性疾患克服研究事業)運動失調症に関する調査研究班　平成 22 年度総括研究報告書 : 85－87(平成 23 年 3 月)
30) 辻　省次, 松川敬志, 後藤　順, 鈴木康之, 下澤伸行, 髙野弘基, 小野寺理, 西澤正豊 : 副腎白質ジストロフィー患者における PEX5 遺伝子の全塩基配列解析及び表現型における関連解析 : 厚生労働科学研究費(難治性疾患克服研究事業)運動失調症に関する調査研究班　平成 22 年度研究報告書 : 83－84(平成 23 年 3 月)
31) 鈴木康之, 奥山虎之, 田中あけみ, 折居忠夫, 戸松俊治 : ムコ多糖症 IV 型に対する疫学調査. 厚生労働科学研究費(臨床研究・予防・治療技術開発研究事業)新規治療法が開発された小児稀少難病の疫学調査と長期フォローアップ体制の確立に関する研究班　平成 22 年度総括・分担報告書 : 12－14(平成 23 年 3 月)
32) 丹羽雅之 : 全国ユニット機関名簿 : 医学教育 42 : 181－189(平成 23 年 6 月)
33) 丹羽雅之 : 第 41 回医学教育セミナーとワークショップ : 医学教育 42 : 276(平成 23 年 10 月)

11. 報道

1) 藤崎和彦 :「黒岩祐治メディカルレポート 59 シリーズ医療教育を問う 2～コミュニケーション教育の挑戦！！～」スタジオ解説 : スカイパーフェクト TV 医療福祉チャンネル(2009 年 2 月 14 日)
2) 藤崎和彦 : 臨床研修制度 見直しに賛否教育 : 日本経済新聞(2009 年 3 月 8 日)
3) 藤崎和彦 : 模擬患者で診断力磨く : 日本経済新聞(2009 年 4 月 12 日)

4） 藤崎和彦：医師と患者のコミュニケーションをより円滑に：まにわ@タウン 06 号(2009 年 5 月 30 日)
5） 藤崎和彦：「『模擬患者』問診で対話力磨く」：中日新聞(2010 年 11 月 9 日)
6） 鈴木康之：書評「ワシントン小児科マニュアル」：医学界新聞 2923 号(2011 年 4 月 4 日)
7） 藤崎和彦：「医療者に求められるコミュニケーションスキルと教育の現状」：薬事日報(2011 年 4 月 4 日)

12. 自己評価

評価

2008 度に 1 名, 2011 年度に 3 名の社会人大学院生を日本各地から受け入れることができ，本分野の認知度と必要性は高まっていると判断される。入学者はいずれも指導医クラスであり，今後それぞれの専門分野で指導者として活躍することが期待される。研究成果は，これからであるが，以下のようなテーマで教育研究を推進している。

1）カリキュラム開発と学生評価法
2）コミュニケーション教育と Professionalism 教育
3）より効果的な能動的問題基盤型学習
4）シミュレーション教育・臨床スキル教育と E－learning の融合
5）地域基盤型医学教育と総合医の育成方法
6）より効果的な臨床教育法・指導法の開発
7）日本における医学教育学研究の推進と専門家育成
8）適切な学生・研修医選抜方法の開発
9）専門医・指導医のアウトカム・コンピテンシーに関する研究
10）緩和医療，死の教育に関する研究

現状の問題点及びその対応策

医学教育学の研究の歴史は浅く，また研究手法も一般的な医学生物学領域の研究と大きく異なるが，欧米では 1 つの研究分野として定着している。本邦においても医学教育学分野の存在に関して認識を広める必要性がある。また研究手法を確立し普及する役割も担っていると考えている。現状では医学教育研究分野に関心を示す医師・医療関係者はまだ少ないが潜在的ニーズは大きいと期待されるので，その発掘に努めたい。

今後の展望

医学教育学が大学院の一分野として確立することが当面の目標であり，着実な研究成果の発信と人材育成を通して，日本における医学教育学の確立に貢献することが中長期的な目標である。さらに国際交流を通じて，日本の医学教育を世界に発信していきたいと考えている。